

平成18年6月12日

議長 杉原豊喜  
1番 上田雄一  
3番 山口裕子  
5番 大河内 智  
7番 古川盛義  
9番 山口良広  
11番 山崎鉄好  
13番 前田法弘  
15番 石橋敏伸  
17番 小池一哉  
19番 山口昌宏  
21番 吉原武藤  
23番 江原一雄  
27番 高木佐一郎  
29番 黒岩幸生

副議長 牟田勝浩  
2番 浦 泰孝  
4番 松尾陽輔  
6番 宮本栄八  
8番 上野淑子  
10番 吉川里已  
12番 末藤正幸  
14番 小柳義和  
16番 樋渡博徳  
18番 大渡幸雄  
20番 松尾初秋  
22番 平野邦夫  
26番 川原千秋  
28番 富永起雄  
30番 谷口攝久

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 緒方正義  
次長兼総務係長 黒川和広  
議事係長 松尾和久  
議事係員 森正文

4 . 地方自治法第121条により出席した者

市		長	樋	渡	啓	祐
副	市	長	古	賀		滋
副	市	長	大	田	芳	洋
教	育	長	庭	木	信	昌
総	務	部	大	庭	健	三
企	画	部	前	田	敏	美
市	民	環	藤	崎	勝	行
福	祉	保	中	原	正	敏
経	済	部	松	尾	茂	樹
建	設	部	大	石	隆	淳
山	内	支	田	代	裕	志
北	方	支	未	次	隆	裕
教	育	部	古	賀	堯	示
水	道	部	伊	藤	元	康
市	民	病	木	寺	甚	藏
総	務	課	古	賀	雅	章
財	政	課	森		基	治
企	画	課	宮	下	正	博

議 事 日 程 第 3 号

6月12日(月)9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成18年6月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
6	1 上 田 雄 一	1. 中心市街地について 2. スポーツ振興について 3. 教育について 4. 市の財産について
7	8 上 野 淑 子	1. 環境整備について 下水道整備計画について 1) 1市2町合併の公平差はこの計画にあると思うが、北方の実施計画は 2) 合併浄化槽の設置はどのように考えているか(補助以外) 2. 障害者にやさしい市づくりについて～バリアフリーの見直しを～ 公共施設、道路の再確認を 庁舎のエレベーター設置について
8	10 吉 川 里 己	1. 地域経済の活性化について 2. 弾力性のある財源を求めて 3. 道路行政について
9	9 山 口 良 広	1. 武雄市の観光対策について 2. 子育てのしやすい環境づくりについて～特に保育園整備について～ 3. 農業政策について 「経営所得安定対策」はどんなもので、市内ではどう生かされ、農家所得の増加にどうつながるか 農地の水害対策や排水対策はどうするのか 農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業を利用し、主要道路側道を作って農道整備事業ができないか 農産物の販売対策について 認定農家の育成について
10	23 江 原 一 雄	1. 固定資産税の税率引き下げについて 2. 山内・北方支所の庁舎の活用について

順番	議員名	質問要旨
10	23 江原 一 雄	3 . 乗合タクシーの路線延長について 4 . 国道35号線踊瀬西谷峠のカーブ改良工事の推進について

開 議 9 時 2 分

議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。休会前に引き続き、本日の会議を開きます。

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は23番江原議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは、通告の順序に従いまして、1番上田議員の質問を許可します。御登壇を求めます。1番上田議員

1番（上田雄一君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、私、上田の一般質問をさせていただきます。何分、新人の若輩者でございますので、文言や表現に不適切な面があるかもしれませんが、できるだけ質問の意図するところを間違えないように発言するよう努力いたしますので、皆様どうかよろしく申し上げます。

さて、私は皆様と同じように、生まれ育ったこの武雄市をもっとにぎわう町、そして住みよい町になるように市民の方々の声に耳を傾け、行政の意見を聞きながら、市民と行政とのパイプ役として誠心誠意努めてまいりたいと思っております。合併により新しい町に生まれ変わったこの武雄市ですが、私自身、本当の意味での新しい町はこれからが始まりだと認識しております。

先般行われました選挙を振り返ってみましても、お互い、見た目は抜きにして市長が36歳、私が34歳、市長と同世代の若者として市民の方々の声を聞いてまいりましたけれども、以前と比べ確実に若い世代の市政へ関心が高まってきているのではないかと感じている次第でございます。少なからず、もうどがんじゃいせんばいかんぞという気持ちが芽生えてきていると、そういうふうに認識しております。

しかし、残念ながら現段階では市民レベルでの若者の声が届くような仕組みはなきに等しく、私自身、市議になるまで行政とのかわり方はわかりませんでした。こうした面からも、若者の関心が薄れる前に、先般、募集、実施されました「わかかもんプロジェクト」は大変いいことだと思っております。私自身、一人のメンバーとして誠心誠意頑張っていこうと思っております。

行政と市民が一丸となって住みよい武雄、にぎわう武雄をつくるよう、今後とも、しり切

れトンボとならないように、ぜひ継続的に取り組んでいただきたいとお願いしたいと思いません。

先日、社団法人武雄青年会議所主催で行われました新市長と語ろう会ですが、自分もスタッフの一員だったということもあって、なかなか全部を聞くことはできなかつたんですが、中でも観光の重要性、中心市街地の重要性を市長は積極的に話されておりました。

そこで市長にお聞きします。私は松原生まれの西浦育ち、天神在住という根っからの武雄の町の中の人間です。そういう人間として、まず最初に、中心市街地として具体的には駅前通りの照明について質問させていただきます。

ブログとか記載されておりましたので、私も拝見しましたが、大阪から帰郷されたとき、武雄駅に夜到着されたと聞いております。そのときに駅前通りを見られて、もちろん今現在は駅前整備中ではありますが、この駅前通りを見てどう思われたか、率直な感想をお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

昨年12月の終わりに武雄市に帰郷してまいりました。そのときは緊張して周りの景色はわかりませんでしたけれども、ただ、選挙期間中に松原通りを歩いていたときに、特に夜歩いていたときに、真っ暗な状態で、私が高校のとき過ごしたときとはもう随分違うなあというふうに正直に言って思いました。

議長（杉原豊喜君）

1 番 上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

私もたまにつき合いで たまにです。たまにつき合いで飲みに出かけるんですけど、実は私、親戚一同、酒豪ぞろいで痛風一家というような不評をいただいておりますけど、そういうわけかどうかわかりませんが、そういうときによく思うのが、やっぱり武雄駅前通り、つまり松原のおれんぎ通りの夜間についてなんですけど、これは照明が消えておるといのは市民、観光客にどがん映っとうとかなと、率直に思うわけですね。非常に暗いイメージはやっぱり観光地にとってマイナスの印象にしかならんと。照明器具がなくて暗かたないばまだですね。あるとに消えとるていうとが、やっぱり言い方が悪かばってんが、この町はもう長くはもちませんよと言っているようにしか見えんわけですね。こういう表現にちょっと不適切な面があるかもしれませんが、これについて、やっぱり行政のトップとして市長はどう思われますか、お答えをお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

行政のトップとして、あるいは一市民として、今の真っ暗な状態というのは一日でも早く改良していきたいなというふうに思っています。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そこで商店街の方が、あの道は何とかせんばと、約20年前に28基の照明を設置されて、商店街が自前で年間約1,200千円ぐらいの電気代を払い続けてこられたという経緯があるようです。これは自発的に行った事業でありますけど、やっぱり郡部と違って駅周辺は市の顔といますから、そういった意味でも、やっぱり何らかの手だてをせんといかんというふうに思うわけでございます。結局、その道がやっぱり地元の方が負担しておる電気代の支出が大き過ぎて本来の事業に取り組むことができずにおんさあと。

だれが見てもやっぱり悪循環じゃなかかなというふうに思うわけですが、担当課の方にも相談に行きましたけど、あの道は県道やっけんですねえと。区画整理も控えとるけんがというふうな回答をいただいておった次第でございますけど、そこで、私はやっぱり区画整理がすぐ行われるもんでもないもんですから、整備されるまではまずあの照明を点灯させんといかん、というふうに思うわけです。どうしてもそこで点灯するとなると、やっぱり費用が発生するわけですけど、そこは全額行政でというわけにもいかなかなあというふうに思うんですけど、やっぱり民間と行政と、欲を言えばいろんな企業とか、そういったのとタイアップして武雄市全体の発展のためにつけるべきではないかというふうに思うわけですが、どうお考えでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、私が市長に就任して以来、職員の皆さんに対しては、できない理由よりできる理由を考えてほしいということで、見事に受けていただいて、まず松原交差点の道路照明につきましては、平成18年度の予算で県に一定の理解をしていただいて、つく方向になっております。その上で、先ほど議員から御指摘がありましたように、私も行政が100%ということになると、宮野町とか、あるいは本町等々の兼ね合いがありますので、3分の1を限度に補助を考えていきたいというふうに思っています。ほかの3分の2は、例えば九州電力さんであったりとか、あるいは先ほど御指摘があったように、企業さんであったりとかいろいろあるとは思いますが、一定の条件を設けて補助要綱を整備していきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。やっぱり武雄市の発展のためには、まず玄関口は明るうなからんぎいかんというふうに思いますんで、ぜひ取り組んでいただきたい。やっぱり身の皮が削られよる分は今後のまちづくりの運営においても改善していこうと。そいぎ、本数ばずうっと今は28基ついとぅばってん、本当にそいが必要かとかにゃというごたつとば今後の区画整理にも反映させてもらうごとですな。今、九州電力という話が出ましたけど、例えば省エネの電球をちょっとあそこだけ専用でちょっと開発してもらうとか、そういういろんな取り組みの可能性があるとありますんで、ぜひ積極的によろしくをお願いします。

それでは、次の質問に入らせていただきます。

続いてスポーツ振興についてですけれども、やっぱり武雄市の今後の課題は、武雄市にもっと多くのお客さんと呼ばんといかんとじゃないかと思うわけでございまして、武雄市は今まで温泉とか競輪、また焼き物などいろんな事業で武雄市を営業されてきたんではないかと思えます。もちろん関係の方々におかれましては、改めて敬意を表し、これからも積極的に充実させることをお願いしたいところであります。

しかし、これからの時代、武雄市に集めるには、やっぱり既存のカードだけでは物足りなさを感じている人も多いんじゃないかというふうに思うわけでございます。事実、観光客数も1999年の138万人をピークに低迷が続いておりまして、2004年には16.6%減の115万人と、加えて10年前には5割近くを占めていた宿泊客数も既にもう3割を切っていると。つまり売り上げが落ちている会社というのは、やっぱり基礎事業をしっかり安定させ、新しい取り組みに着手しないとイケない。語ろう会でも、武雄市には財産がいっぱいあると市長おっしゃってございましたけど、しかし、それを生かしてきれていない。武雄市の潜在能力は極めて高いとおっしゃってございました。そういうことから、既存の温泉や観光など安定するよう努力しながらも、訪問客をふやすための新たな仕組みに取り組むべきだと私は考えております。

そこで、新しい収入源としてというのと、ちょっと語弊があるかも知れませんが、スポーツを通じたまちづくりを提案していきたいと考えております。スポーツにはいろんな可能性がります。子供の成長過程でも有意義であり、なおかつ高齢者、社会人にとって生涯スポーツとしても考えると大変重要なものです。何より人を動かす力があるんじゃないかと思えます。

先日開幕したワールドカップですが、今夜は注目の日本戦が行われます。私もサッカーを愛する人間として精いっぱい応援しようと思っておりますが、そこで今週の日曜日の第2戦、18日ですけれども、競輪場を開放して屋外でみんなでサムライブルーを応援しよう、という取り組みが行われようとしておりますけれども、市長はそれに対してどのようにお考え

ですか、お答えをお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今週日曜日に競輪場を無料開放いたしまして、私も市のトップとして非常にこれはいいことだというふうに思っております。もともとの発端は、牟田副議長から私の方にこういったことができないかという話がありまして、それを市がやるのではなくて、何人かの民間の有志の方に声かけしたところ、そちらの方でもう優先して動いていただくと、これは非常にいい形だというふうに思っております。貝原先生が実行委員長を引き受けていただいて、ＪＣ、ＮＰＯの臥竜塾、あるいは武雄市のサッカー協会、一丸となって短期間の間に準備をしていただいた。これについては深く感謝をしているところであります。私も応援に参ります。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そういうスポーツが人を動かす力があるというふうな認識で私は聞いておりましたけど、そういう多大な可能性を持つスポーツですけど、これまでの武雄市で合宿とかキャンプ、大会などの誘致というのは積極的に行われてきたのかなというのをお聞かせ願いたいんですが、お願いします。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

私の方から答弁をさせていただきます。

以前、泉都武雄に大会を誘致する会、通称泉誘会というのがございましたけれども、いろんな事情がございまして、現在はそういった組織はございません。大会誘致については市のスポーツ施設がございまして、それを活用しての大会誘致というのは日常活動の中でやっ

ていただいておりますし、また体育協会の方でもやっ

ていただいております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

それでは、来年の7月28日から8月20日まで行われます高校総体ですけれども、県全体で150億円の経済効果が見込まれております。武雄市にはバドミントンと自転車競技、この2種目が予定されておりますけれども、これについて武雄市の受け入れ態勢をお聞きしたいのですが、市内の宿泊施設の利用見込みですとか、経済効果をどういうふうに武雄市として予想されておるか、教えてください。お願いします。



議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

高校総体は来年の7月28日から8月20日まで24日間開催をされます。それで、まず経済の波及効果ですけれども、県全体では155億円ということで一応試算されておりますが、これを武雄市に当てはめると、単純計算ですけれども、約9億円ということで算出をいたしております。

それから、開催の準備につきましては、実行委員会を立ち上げております。合併前にそれぞれの市町で立ち上げておりますが、新市の実行委員会ということで7月の下旬に立ち上げたいというふうに考えております。

なお、宿泊とか弁当の手配とか、そういった分については県の方で配食センターをつくるということになっておりまして、そちらの方で調整をするということにいたしております。武雄市もバドミントン、それから自転車をやるわけですけれども、多数の参加があって、それから経済的にも効果が出てくればというようなことでも期待をいたしております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。それでは、インターハイの開催種目、これは29競技32種目予定されておりますけど、何で武雄市でバドミントンと自転車競技の2種目なんですか。2種目じゃなしにもっとほかにも競技人口が多い種目をさらに誘致することは不可能だったのかというのをお聞きしたいんですが。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

本市ではバドミントン競技の女子とそれから自転車競技、これはロードとトラックですが、この2種目が開催をされます。開催の競技の種目については県の実行委員会の方で決定をされておりますので、これは変更されるということはありません。（「答弁になっとらん」と呼ぶ者あり）

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

これからの競技を変更するというふうな質問ではなくて、これまで何で2種目だったか。

ちょっと極端に言うと、やっぱり武雄市というのは交通の便も非常にいいし、温泉という付加価値もあり、なおかつ宿泊施設も整っていると。環境的には非常に優れているものがあるんじゃないかと考えるわけです。ですんで、そういった総体の種目が決まるときに武雄市としてもっと積極的に誘致すべきだったんじゃないかというふうに思うわけですが、そういう意味で質問をさせていただきました。

そういったのは、そこでやっぱり私が感じるのは、今そういうスポーツに関しては生涯学習課のスポーツ振興係というふうな形であいもこいも対応されて、非常に忙しくされております。今の時期でも、さっき7月に実行委員会を立ち上げる予定というふうに聞いておりますけど、先日いただいた資料の中では、ことしの4月1日現在で単独競技をその一つの地域で開催するに当たって、やっぱりほかの市町村、自治体はどこもすべて専任の担当者があるわけですね。武雄市は共催もあるとですけど、自転車競技に関しては武雄地区だけで行われるわけですよ。そういうので、やっぱり専任の担当者というのがいないという対応では遅かと思うわけです。

そういうときでも、やっぱりそがんふうな総体の企画というのがわかった時点で、もう完全にその人が担当よってというような、スポーツ専属のチームというか、部署をつくっていただいて、体育協会と商工観光課、また、そういったほかの団体などとタッグを組んでスポーツを通して武雄市をアピールするよう、企業誘致とか学校誘致ももちろん重要ですけど、それに加えて大会、合宿等を誘致することも必要であり、スポーツ専門のプロジェクチームをとにかくつくっていくということがこれからの武雄市には必要ではないかと考えるわけですが、その点についてどうお考えか、お答えをお願いします。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

県民の皆さんが待ちに待った高校総体がいよいよ来年になったわけでございます。現在、武雄市は競技団体の方から2名の専門スタッフが配置になりまして、これは自転車、バドミントンの高校の先生方でございますが、競技についての準備を進めてもらっております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

資料を見る限りでは、県の方からというよりも市の対応がやっぱり遅いんじゃないかというふうに思うわけです。ほかの自治体を見られても、資料を見ましたところ、やっぱり武雄市だけが専属のスタッフがいなくて。兼任の人はいますよ。そういう意味でもやっぱり積極的にスポーツを通じて生涯学習の一環というよりも、できればスポーツを営業の一つの材料として武雄市をPRすることを考えるべきだと、そういうふうに私は考えております。

実は、大会の誘致等も武雄市にできなかった この2種目が武雄市であるというのを考えた場合に、やっぱりどうしても受け皿となる施設が足りなかったのではないかというふうに考えられますけれども、今の武雄市にある施設について質問させていただきますが、施設ははっきり言いまして、どういうふうな満足度を持っておられるか。今の武雄市のスポーツ施設自身が満足であるとお考えかどうかをお聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、最初の質問に答えたいと思います。

7月に合わせて実行委員会が発足になります。そこで3人を増強していきたいというふうに思っています。いずれにいたしましても、私も政治家といたしましては誘致の一つのきっかけとなるようにできればよかったなというふうには思っております。

それと2点目です。満足かという御質問がありましたけれども、これはいろんなレベルによって満足という度合いが多分異なると思います。したがって、市民の一般的なスポーツということであれば、私は率直に言って他の近隣都市と比べて恵まれているとは思いますが、他方で、じゃあ、誘致をするといったときに、武雄市の施設が恵まれているかといったらまあ、そうではないというふうに率直ながら思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

もうまさにおっしゃるとおりだと思います。やっぱり大会等を誘致する 私はやっぱり積極的に大会を誘致して、キャンプを誘致して、武雄市をもっとスポーツ振興のまち武雄というふうに持っていけんかなあというふうな考えを持っておるわけでして、大会とか合宿とかそういう競技としてのスポーツを誘致した場合に、どうしても今の武雄市の施設だと不十分じゃないかと、貧弱過ぎるというふうに思うわけです。今の現状の白岩体育館にしる、競技場、球場にしる、やっぱりどうしてもシーズン中にはなかなか借りられるような状態じゃなかわけですね。日程が詰まってあって、いざ使いたいと思ったときにも、やっぱりなかなか使えんと。

そういうふうな意味でも、やっぱり施設の充実というのはぜひまず取り組んでいただきたいんですが、ちょっと視点を変えて、市長の具約の21にあるようにネーミングライツの積極的な活用とか施設への広告収入など、民間の力をかりるというようなお考えもあるようですが、実際に武雄市でこうした取り組みが現実的に可能かどうか、お答え願います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、前段の上田議員の質問に対して、意見に対して答えさせていただきます。

私はこのように思っております。まず、例えば私が沖縄県で関与いたしましたけれども、日本ハムのキャンプを誘致するといったときに、合わせて施設の改良を行いました。だから、今のオールジャパンで考えた場合に、施設をどんなによくしても、それは空箱で終わる危険性が非常に高い。したがって、例えばそういったプロ野球、あるいはJリーグ、こういったところが何人で何日間等々の見込みがあれば、それに合わせて施設整備っていうことを考える方が私は現実的なように思っております。ぜひ上田議員の人脈等を生かしていただいて、そういう話がありましたら、私の方にお声がけをしていただきたいというふうに思っております。これが第1点であります。

第2点のネーミングライツであります。これに関しては、私は武雄市では可能性があるというふうに思っております。と申しますのも、武雄市は非常に交通の便がいい。道路の利用率、あるいは言いかえれば車もどんどん走っているという状況下で、ほかの都市と比べると非常にネーミングライツの可能性は高いというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

1番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほど費用対効果のことで話があったと思いますけれども、とにかく今の施設じゃやっぱり九州大会のレベルの誘致すらままならんわけでございます、私もちょっと一野球人として言うと、再来年の高松宮杯の全国大会がこちらの方に来るそうですが、そのときもやっぱり武雄市はメイン会場にも名乗りを上げられず、結局、みゆき球場を持つ嬉野市になったというような経緯もあるようです。その場その場の対応ではなく、そういうときに武雄市が名乗りを上げられるような施設の充実が絶対必要不可欠なものだと考えております。

そういった面から見ても費用対効果、私の人脈というと大したものはありませんけど、いろんな人たちのお力をかりて、そういう大会誘致、キャンプ誘致等積極的に行いまして、やっぱり今の県内の市営球場としてはもう数少ないナイター施設がない球場とか、競技場においてもタータンが敷いてなくて公式記録にもならないような競技場、体育館においてもバレーの公式戦ができない天井の低さ、またコートが狭さ、そういうのがやっぱりかなり目につくわけでございますので、私自身もそういう施設の充実をするためにも、大会誘致とかキャンプ誘致は積極的に取り組んでいきたいと思っております。

そういう中でも、やっぱり行政の中でもそういう専門の部署とかいうのは考えられませんかでしょうかね。お答え願います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

専門の部署、あるいはプロジェクトチームは、その話が少しでも出てきた時点で私の責任でつくっていききたいというふうに思っています。まず専任のところをつくるのが私は先じゃないというふうに思っています。卵と鶏の関係でありますけれども、卵があって鶏だというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

卵の話でわけわからんことになりました。そういう意味でも市長の具約の40にあることでちょっと話を変えたいと思いますけど、武雄市のブランド品戦略というふうに掲げておりますけど、武雄ブランドというのはあえて品物に限定する必要はないのかなあと思うわけでありまして、武雄市からも野球やサッカーなどプロ選手というのを実は多く輩出しておるわけですね。スポーツに限らずですけど、人材も大きな武雄ブランドにつながると考えます。そういう面から積極的に取り組んでいただきたいと考えるものが、やっぱり野球に関していえば企業誘致にしても、例えば都市対抗野球に出場するような企業を誘致するとか、そういうのも一つの方法ではないかと。

実は、ことしも数人武雄市の方が他県の実業団に入社して頑張っておられるというのがあるわけです。そういう優秀な人材を武雄市で育て、プロに送り込むということもやっぱりぜひ考えていききたいと思うわけでごさいます、佐賀の方にも佐賀スピリッツというふうな硬式のクラブチームができたわけですね。そこもやっぱり佐賀県の野球をしている人たちをそこで育ててプロに送り込もうというふうな取り組みがやっているわけですね。そこもやっぱり活動の拠点が今なかわけですよ。練習会場もままならんような状態ですね。そいけん、やっぱりぜひそがんと武雄市に持ってきたいなあというふうに考えるわけです。

とにかくそういうふうにして、今まで武雄市は財政難、財政難と、お金もないというふうに考えておったわけですけど、やっぱり合併特例債なんかを使用して施設を充実させてというのが私の夢であります。とにかく武雄市のまちにはやっぱりそれが必要じゃないかというふうに思うわけでごさいます、西部地区の道州制の問題もあって、西部地区の中心に武雄市がならんばいかんというふうに思うわけですね。そういうときでもやっぱり温泉とか観光をアピールするだけではなくて、ぜひスポーツを取り組んだまちづくりに取り組み、武雄市をやっぱりスポーツ振興のまち武雄と売り込んで、ぜひ西部地区の中心になるよう行政と一緒に頑張っていきたいなあと考えております。よろしくお願ひします。

それでは、続きまして教育問題に入らせていただきます。

私自身、4人の子の父親として、子供たちの将来について教育面でも非常に大きな不安が

あるわけです。今回の選挙戦で地域を回る中でも、同じような悩みを持っておられる同世代の親御さんというのがたくさんいることを実感しました。そのようなことから、今までも議会でもいろんな論議をされているようですけれども、高校再編もそうですけど、改めて来年度開校予定の県立中高一貫校に関連して質問をさせていただきたいと思っております。

市長も今回の選挙戦で積極的に、また軽快なフットワークで各地域を回られたそうですが、その中で、この高校再編、また中高一貫校について市民からどのような意見を聞かれましたか。そして、どのようなことを感じられたか、そのときの率直な印象をお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

高校再編、とりわけ青陵の問題に関しては、議会でも私がここで語り尽くせぬものがあります。と申しますのも、私が12月の終わりに職を辞して回っていったときに、前半は青陵がなくなることは特に山内町、あるいは北方町、武雄市の周辺部の皆さんからけしからんという話を私自身率直に聞いておりました。これは事実でございます。その上で私も回りながら勉強をし、なおかつだんだん声が、これはいたし方ない、そういった声も出ております。そのいたし方ないという声の一つに、少子化が思ったより進んでいると、だから予想を立てても、それ以上に進んでいる状態であれば、この再編というのはいたし方ない、そういう声も他方で聞くようになりました。一方で、正直に申し上げまして、いろんな形であれ武雄市に残ってよかったと、そういった声も聞きました。したがって、その意見の幅、次元の物すごくいろんな意見を聞くことができ、私も正直言って一人の人間として戸惑うことができました。

総括すると、今回の青陵の関係は、県の問題とは申しますけれども、私は一定やむを得ない部分があるのではなからうかというふうに率直に思っております。その上で、私は知事とも県の教育長とも、この話については意見交換を実はさせていただいております。その上で、特になくしてほしくないという声は、私の声を通じて県には直接伝えてはおります。ただし、やはりそこで議論を重ねるにしても、やっぱりしようがないという部分は私の胸の中でこだまするものがあります。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。これも、やっぱり新市長が誕生して新しい武雄市となって、再度考える問題だと、新しい武雄市全体の問題だと私も再度質問したわけでございますけど、本当に非常

に難しい問題だと私自身も考えております。全く高校再編で武雄高校 青陵高校問題というよりも、やっぱり武雄高校と青陵高校が統合されて一つの新しい高校ができると。それが一つの新しい高校が中高一貫になると。これについてはやっぱり中高一貫自身、私も武雄にあってよかとかなあ、必要なあというふうに思うわけですけど、2校しかなか普通高校が統合されて、その統合されたとがなおかつそれが中高一貫という、これがやっぱり問題ではなかなあというふうに私も考えておるわけでございます。

とにかく一番問題は子供たちが不安にならないような教育環境、また子供を育てられる親御さんの不安を取り除くような教育環境をつくっていくべきだと考えておりますけれども、教育で私が最も重要なのは文武両道だと思うわけですね。さっきのスポーツについての話もちょうと絡む可能性もありますけど、私も東京で会社勤めの経験がありまして、人事担当の方ともよく話させてもらってたんですが、その人との話の中で、おまえ今までうちは受けた中でもやっぱり最低レベルの成績やったぞと言われよったわけですね。何で入れたとやというふうな話になると思うんですけど、やっぱり人事の人の見解というのは企業としてとか社会人として必要なのは個性であり人間性と。知識が豊富にこしたことはないが、それよりも先輩関係とか道徳など社会を理解し、魅力ある個性など人間力豊かな人が大事と。体育会系はそこを知らず知らずに鍛えられとるような状態と。だから、どこ行っても体育会系は人気があるよと。決して私がそういう人間と言っているわけではありませんけど、私も全く同意見でありまして、私の4人の子供たちもやっぱりそういう人間に育ててほしいと思うわけです。

今回の高校再編によって、子供たちが受ける高校の選択肢というのはやっぱり武雄市から一つ減ります。そこで大げさになるかもしれませんが、学力重視に偏って地域活動離れとか、子供たちの個性を妨げる一つの要因につながるのではないかと懸念しております。やっぱり高校といっても武雄市にある高校ですので、勉強、勉強、勉強となるよりも、人間性豊かな子供たちをつくっていくために、どういうふうな取り組みをされているかというのをお聞きしたいんですが、よろしいでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

議員おっしゃるように、人間性豊かな子供たち、これは私たち大人一人一人の願いでもありますし、責務でもあります。公立中学校におきましては、これまでも申してきましたように、生きる力をどう培っていくかということで特色ある学校づくり、あるいは地域に根差した中学校経営ということで頑張ってきております。

中高一貫教育、これは県が進める新しい選択肢の一つであるわけですが、私はそのあたりにつきましては、我々が今ねらっている中学校の教育姿勢と全く同じだろうと理解をしてお

ります。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね、私も商売柄というか何というか、子供たちと接する機会が非常に多いわけ  
でございます。先日も武雄高校の子供たちをつかまえて、学校おもしろかやというような話を  
聞いたところ、おもしろくないと。なしと、勉強、勉強、勉強やもんと。そいぎ、クラブ活  
動をしようもんで言うたぎ、中学校のときまではしよったばってん、もう勉強についてい  
ききらんけんやめろて言われたって。そいぎ、おまえが勉強ばせんけんやろうだいて言うた  
ら、うんにゃ、だいでんやめんさったと、ほとんど今、我がの仲間やしよらんと。高校でも  
そういう教育でよかとかかと疑問が残ったわけでございますけれども。

それでは、県立中高一貫校に伴う危機管理についてお尋ねをします。

今までの教育制度を大幅に変更するに際して、いろんな問題、課題があると思います。市  
の教育委員会としてはどのように調査され、問題に対し、どのように対応されているかを聞  
きたいのですが、まず我々子育て世代真っ最中の人たちにどのような形で説明されておるか。  
なぜかという、この中高一貫の仕組み、高校再編の仕組みを把握していない人っていうの  
が私の周りにも結構まだたくさんいらっしゃると思います。もちろん保護者さんの勉強不足と言わ  
れればそれまでかとは思いますが、中高一貫校の開校に伴いまして、より多くの保護者が  
やっぱり問題を把握して、子供たちが不安を抱かないように行政、有識者はもちろん、各保  
護者が一体となって考えていかないことには、本当に子供たちのための魅力ある学校実現は  
難しいのではと考えております。そういう意味でも、どのような周知の方法をとられている  
かをお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

教育委員会といたしまして、中高一貫教育校につきましての説明会というようなものは、  
これまでもPTA、あるいは学校長、あるいは育友会の方から要請がありましたことにつ  
きましては、教育長初め県の方からも出席をいたしまして、説明をさせてきていただいたと  
ころでございます。また、本年度になりましたは校長会の方でも説明会がございまして、校  
長を通してより現場的な視点から説明ができるような、そういう校長への研修会も行われた  
わけでございます。

また、開校がいよいよ来年度に迫ってまいりましたので、本年度いよいよ準備室が開かれ  
まして、6月にはインターネットのところにもホームページが開かれると。それから、8月  
には学校説明会というのも武雄市の文化会館で開かれることになっております。これからも、



また私たちとしてはそういう意味でいろいろとお父さん、お母さん方の質問には答えられるように、学校長を中心にしながら説明をしていきたいと思っています。

また、危機管理という御説明がありましたが、私は危機管理という視点で、開校後の公立中学校のあり方について今いろいろと悩んでおります。それは市内の小学校から中高一貫教育校に入る数があるわけですが、そのときに公立中学校に入学をする子供たちがその分だけ少なくなるわけですが、そのときに公立中学校の活力をどういうふうにして維持、高めていくか。これが非常に私にとっては課題でございます。それをどういうふうにしてやっていこうかと、妙案はないわけですが、やはり特色ある学校づくり、指導と評価の充実、あるいは教育課程の一層の見直しと、こういう根幹にかかわるものを今まで以上にやっていかない限り、公立中学校の魅力を増すことはできないだろうと。

最終的になりますが、要は教職員の資質向上、これが最終的な課題であると私は考えております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほどの話にもありましたけど、県立の中学校に入れなかった子供たちのこと、これに関してもう一点。この県立中学に入るの内申書とか適性検査などで選抜されて、あとは抽せんにより選出というふうになっておると認識しておりますけれども、小学6年生の大事な進路をやっぱり抽せんと、言い方を変えるとくじですね。それ自体納得できないわけですけど、仮に抽せんに漏れた子供たちの心のケアというのはどのように考えられておるか、お聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

中高一貫教育校の入学までのプロセスについて、今お話がありましたが、適性検査、あるいは面接、あるいは調査書、こういうもので第1次の選抜をします。これは学力をはかるといことでなくして、これからの高校教育、中学校教育という視点で6年間の中等教育というものを履修していくのに、コミュニケーション能力でありますとか、問題解決力とか、あるいは思考力とか、表現力とか、こういうふうなものが非常に大事になってくるとい、こういう学校のあり方等を考えていきますときに、学力で選抜をすることじゃなくして、第1次でそういう、先ほど申しましたようなことで行っていかれることになっておりますが、そういうものの中から最終的には本人さんの、先ほど申されたように、抽せんという一つの方法が今回、これまでも致遠館、あるいは唐津東等で取り入れられているわけですね。ですから、この一つの方法としてこれもやむを得ない県の判断だというふうに思いますので、私

もそういうふうなことで考えております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

私の知人でも昨年、致遠館高校を受けて1次に通ったという方がいらっしやいまして、その後の抽せんで漏れたと、外れたというようなことで、やっぱり子供さんが非常にショックを受けられて、親御さんから、もうこれは何とかならんとかというふうな質問をたくさんいただいたわけでございます。そういった意味でも、やっぱりこの抽せんというのが私も非常に納得いかないところではあります。

とにかく行政主導の高校再編、中高一貫校など、大幅な教育制度の変更があるわけでございますんで、県の教育委員会の問題だからというような県任せというふうな、そこまでは言いませんけど、最も影響を受けるのが武雄市の子供たちなわけですから、やっぱりもっと教育環境が偏ったり不備があると、武雄市の発展にも絶大な障害になることは間違いないと考えるわけでございます。子供たちの不安とか、子育て中の親の心配をなくすよう、今まで以上にやっぱり市の方も県と協議していただいて、子供たちの未来によりよい教育環境をつくっていただくよう強く希望することをお伝えしまして、次の質問に入らせていただきます。

それでは、最後になりましたが、市の財産について質問させていただきます。

具体的には公用車、いわゆる黒塗りですが、市長のブログに掲載されていたので、市民の興味も非常に高いようです。市長のブログはメジャーで、私のブログはマイナーとうらやましい限りですが、私自身、よく市民から黒塗りは最終的にどがんしゅうでしょんさっとねという声をよく聞きます。市の財産でもあります。市民に売却方法などを含めて、詳細をできるだけわかりやすく説明することが必要ではないかと思い、また早急に行うべきものだと考えましたので、市長、この場をかりて的確に説明をしていただきたいなと考えるわけでございます。お願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

公用車の問題について、私から答弁をさせていただきます。

私は、さきの選挙公約の中で、私が市民参加を呼びかける観点から、特権的な黒塗りは似合わないというふうに申し上げておりました。そういった意味で、これは私の公約の一つであるということをもっと申し添えたい。その中で、市長車というのは、シンボリスティックな意味があります。例えば、内閣総理大臣がどういった車に乗るか、あるいは環境大臣がどういった車に乗るか、あるいは知事がどういった車に乗るか、一般の車とはちょっと違うシンボリスティックな意味があることから、私は二つの側面を考えました。一つは、環境に配慮

した面、それとも一つが、私が選挙期間中に橘の洪水、あるいは武内の洪水に駆けつけたときに、これは果たして黒塗りの公用車で行けるやろうかということ思ったときに、災害対応のSUV、この二つの側面から私は今般、黒塗りの廃止ということをお願いした次第であります。

もう少し具体的に申し上げますと、燃料や二酸化炭素の排出量等を比較した場合に、燃料については10年間で500千円から700千円の節約が期待できます。二酸化炭素につきましても、年間で約30%程度の排出量削減が見込めます。以上の考え方に基づいて現在の黒塗りの車1台を、ただ全部廃止をすると、市にはいろんな公人の方がお見えになります。したがって、市の公人利用と、あるいは議会用として、この1台は残す。その上で、あとの分についてはできるだけ高く処分をし、先ほど申し上げました災害対応可能なハイブリッドカーを市長の公用車として購入したいと考えております。

黒塗り車の処分方法については、予算上は下取り価格の見積もりが販売業者から示されております。これは議案で提出をいたしますけれども、これに基づいて、私としてはインターネットオークションか、あるいは競売等でできるだけ、その価格よりも高く売れるようにして、市の財政に負担がかからないようにしたいというふうに思っております。この場合、もし下取り価格と差が出るようでありましたら、私は9月の補正予算でその部分については対応したいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。そしたら最後に、先日、ニュース番組でも伝えられておりましたけど、平成以降の結婚で、なおかつ4人以上の子供がいて、貯蓄はなくても子供が財産と考える家庭を今、ネオ子たくさんと言うそうです。少子・高齢化が最大の社会問題と言われている今の時代に貢献している多子世代ですけど、私自身もど真ん中で当てはまっております。

うちの楽しみは子供たちがスポーツを頑張っていて、それを応援すること、これが何よりの楽しみでございます。少子化対策にはこういった親の楽しみをより多くの方に知ってもらうことが一番の対策につながるものだと考えておりますが、先日、白岩競技場で武雄市小学校陸上記録会が行われました。児童数約550名のイベントで、なおかつ平日の昼間だったんですけど、やっぱり我が子の雄姿を一目見ようと、スタンドは、私が思うに、この人たち仕事はよかったとやろうかにかあと思えるほど満員で、盛況でございました。少なくともそこにいた方々は子供の成長を見る親の楽しみを知っている人ばかりだったと思うわけです。

この少子・高齢化と言われている時代に、新婚であられます市長にもその楽しみを知ってもらえるよう、一日も早いおめでたの吉報を期待しながら私の質問を終わらせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

議長（杉原豊喜君）

それでは、以上で1番上田議員の質問を終了させていただきます。

次に、8番上野議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

おはようございます。済みません、初めてここに立ちますので、また違う雰囲気の間違ったりするかと思いますが、よろしく願いいたします。

先ほど一番若い上田議員の次に、私は本当に年配の方で2番目の上野でございます。本当に行政も若返ったという話を聞きながら、ああ、私は本当、でもやっぱり行政にも年寄りも若いのも、女性も男性もいるということで、私は年配の方でいろいろ気づきをしていきたいと思っております。

ただいま議長より発言の許可を得ましたので、一般質問の通告に従って質問をしたいと思っております。

私は去る4月16日の選挙によりまして、新武雄市の皆様の多くの負託により当選させていただきました。きょうここに登壇したところでございますけれども、この選挙戦を通じまして私を支持してくださったたくさんの方々の中から御要望の最も多かった2点について、きょうは質問をいたしたいと思っております。執行部の前向きな回答を期待いたしております。まず、1点目の下水道整備の問題です。

下水道整備につきましては、本当に専門的には難しくて私にはよくわからないところもありますけれども、私たち一般住民が心配していること、お聞きしたいことを質問いたします。

ことし3月、1市2町による新武雄市の合併が行われました。この合併による旧市町の下水道整備を見てみると、山内町では平成18年度中に、現在施行されている大野地区の供用開始をもってすべての下水道整備が完了すると聞いております。旧武雄市域では武雄町を中心とした都市計画区域の下水道整備が取り組まれ、その他上水道水源の上流部の集落について下水道の整備が完了していると聞き及んでいます。私が居住する北方町では第一に総合計画を策定するために取り組まれた町民アンケートで、一番要望の多かったのが下水道整備解決に向けてのことでした。平成11年度から南部橋下地域6集落については下水道整備が取り組まれ、平成15年4月1日をもって供用開始がされております。しかし、北方町の人口の約8割を超える大字志久、大崎地区が未整備となっております。この北方町北部地域の人口密集地の下水道整備についてどのような計画になっているものか、お考えをお聞きしたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

おはようございます。お答えを申し上げたいと思いますが、私の方からは今話がありまし

た中身について確認の御報告を申し上げたいと思います。

今、御質問ありましたとおり、山内町は平成18年度で全域農業集落排水で整備が完了をいたすことになっております。また、旧武雄市域につきましては、市街地部については公共下水道事業を現在実施いたしております。それから、矢筈地区、川内地区、先ほど御質問がありましたとおり、上流部門でございますけれども、この分については農業集落排水事業で整備を行っております、矢筈地区は既に実施をしておりますが、川内地区は現在事業を継続中でございます。北方町につきましては六角川南は農業集落排水事業で整備が進んでおりますが、今現在ではそういった状況でございます。議員御質問のとおりでございます。（発言する者あり）

議長（杉原豊喜君）

静かにしてください。

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私の方から市長として今後の方向について御答弁させていただきます。

私は、下水道はある意味、最後に残された公共事業だというふうに思っております。しかし、物すごくお金がかかります。それは10年前、20年前に公共下水道を布設するときと比べて市の負担、あるいは個人負担が激増している状況にあります。この点を考慮いたしまして、私はまず財政状況はきちんと把握をしたいと思います。その上で議会ともよく相談しながら、平成19年度までに新市での下水道整備計画を策定いたします。その上で基本的な考え方いたしまして、この下水道については公共下水道並びに農業集落排水、浄化槽の3点セット、これはメリット、デメリット、それぞれあります。それをうまく組み合わせて財政負担がかからないように策定をし、年次的に整備を行いたいと考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

はい、計画についてよくわかりました。

済みません、ダブるとは思いますけど、私が調べたことについてちょっとよろしいでしょうか。計画の方はわかりましたけれども、その計画については先ほど一番初めに申し上げましたように、私どもは計画としましては何か後退したような感じに聞こえました。

今からちょっと、済みません、質問のやりとりがわからなくて、いろいろちょっと間違っていると思いますけど、聞いてください。整備計画は市長の方からも伺いました。財政の面についてもいろんな面についても理解できると思います。

まず、もう少し現状をお聞きください。新武雄市の中で下水道整備について現状を見ますと、山内町は今おっしゃったように農業集落排水で5地区のうち4地区は整備、もうす

ぐ全部ですね、100%完了となっております。北方町は本当に今言ったように、六角川以南の橋下地区は約290戸、武雄市はおっしゃったように矢筈地区の50戸が農業集落排水整備が完了ただけで、現在、農業集落排水事業で川内地区の約60戸、また公共下水道で温泉街を中心とした市街地32ヘクタール整備中で、来年度は供用開始する予定と聞いております。

完了の下水道整備率を見てみますと、山内町100%、北方町13%、武雄市5%です。大変な数字だと思っております。本当に非常に低い整備率です。ただ、トイレの水洗化につきましては、農業集落排水事業や公共下水道の集落処理によるものばかりでなく、合併浄化槽 今、市長がおっしゃったように、個別処理による水洗化もできております。これまで武雄市、北方町では、先ほどおっしゃった合併浄化槽についてもですが、北方町では164基、武雄市では1,680基に対し今まで補助がなされております。しかし、合併浄化槽を加味して整備率を想定してみても、武雄市、北方町は約20%にしかありません。いかに下水道整備がおくれをとっているかということがここでもはっきりしていると思うんです。

それで、北方町では本当に立ちおくれた下水道整備による水環境の悪化を懸念して、このままお金がないからできない、じゃあ、このままにしていいいのか、それではいけないだろうということで、行政とともにこれ以上水環境を悪くさせない。家庭環境を水回りから改善しようということを合言葉に、微生物による河川浄化を平成13年当初から取り組んでおります。

今日は町民の約4割を超えると自負しておりますが、この運動に参加しています。そして、下水道がなる前に河川浄化に取り組んでおります。そして、下水道を目指して、そこまでほうっておけないということで取り組みをしております。この事業の運営を今はNPOにお任せしております。立ち上げるときは行政とともに一緒になって立ち上げてまいりました。このNPO初め北方町では、水は命の水、人間の体は20歳前後の若者ですら体重の70%は水と言われております。合併協議のときには北方地域の下水道整備は平成22年度からと聞いておりました。今の執行部の答弁では何だかちょっと見直しがおくれたように思いますが、再度答弁をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

お答えを申し上げたいと思います。

先ほど市長が答弁いたしましたけれども、下水道整備計画を現在、新市として作成をするということになっておりまして、今その準備中でございます。この下水道整備計画ができましたら、それに基づいて下水道の整備を行っていくということにしております。確かに議員おっしゃるとおり、合併協議の中では平成22年度からというようなことも一部聞いておりますけれども、その前に合併した後、下水道整備計画をつくるということになっておりますので、それに基づいてやっていきたいというふうに思っております。現在のところ、平成22年

というような、いつから始めるというようなことは、まだはっきり申し上げることはできない状態でございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私の方から総括的な答弁をさせていただきたいと思います。

私も先ほど答弁したように、下水道はこれからの豊かな生活、あるいは観光都市としてもこれは絶対せんばいかんというふうに思っているわけです。しかし、我々行政を預かるものとしては、福祉、あるいは子育て、あるいはきのうも質問で出ましたけれども、道路等々の整備に、これまた多大な費用を要します。この優先順位をどのようにつけて、どのように住民の皆様に痛みを込めて説明するかというのが私と議会の政治家としての仕事だというふうに思っております。私もしたいです。

しかし、ぜひお考えいただきたいのは、この優先順位です。私は下水道に関して言えば、財政破綻を招かないように年次的に進めるつもりでありますので、どうかその辺の御理解を賜りますことをお願いしたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

市長のお気持ち、重々わかります。また、下水道整備が私たち文化生活の中では最大の目的であるということもしっかり市長がとらえていらっしゃるということはありがたく思います。お金がないというのわかります。しかし、私たちは住環境の整備があつてこそ福祉もあり、いろんなものがその上に成り立っていくんじゃないかと思います。大変な事業だと思えますけれども、先ほど市長がおっしゃいましたように、3点セットでそれぞれ有効な方法で策定計画をなされると思いますが、その3点セットの中身についてちょっとお伺いしてもよろしいでしょうか。その中でメリット、デメリット、私の方でも一応聞いてはおりますけれども、ここに新しく出てまいりました方法について説明をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

メリット、デメリットということでございますけれども、汚水処理という観点からのみ考えますと、下水道事業も浄化槽の市町村型も同じでございます。これは受益者にとってはどちらも同じという意味でございます。ただ、浄化槽整備事業には個人型設置、市町村型設置等がございます。これにつきましては水洗化率の早期向上という点では市町村型がすぐれている。ただ、建設費については、市町村型は安価であります、その後の維持管理に非常に

多大な費用を要すると。それから、下水道事業の方がそういう面では経済的であるというふうに言われております。一般的には市街地のように密集地域、こういったところは集合処理の方が有利、家屋が分散している地域については個別処理の方が有利ということになるかと思えます。

大まかなメリット、デメリットは、今申し上げたようなことでございますけれども、市町村型のメリットというのを一つだけつけ加えたいと思いますが、施設を設置すれば水洗化がすぐにできるというメリットがございます。ただ、この場合には施設整備が非常に早いわけでございます。それと建設費も安価でございますけれども、先ほど申し上げましたように、その後の維持管理が非常に高くなって厳しいものがあるというふうに認識をしております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

ただいまのメリット、デメリットについては大体わかりましたけれども、それでは我々住民にとってはどちらを 地域によっては浄化槽を進められるとわかります。点在しているところはできないということもですね。密集しているところ、いろんなところあるので、それぞれの方法でされると思いますが、行く行くは、先々は私たち住民にとっては市民型が、市町村型がいいものなのか、浄化槽が 受益者負担というのもどちらもあるとは思いますが、つくるときは、今おっしゃったように早くできる、すぐできます。でも、下水道は長くかかるとか、いろんなメリット、デメリットありますけど、先々は我々住民にとってはどちらが有利だと思いですか。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

住民にとって一番何が有利かと申しますと、それは市町村型だということになるかと思えます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

先ほど答弁いたしましたとおり、個々の便益を考えれば、市町村型がベストというふうに考えますけれども、ただし後の維持管理で負担が伴います。この場合、税ということまで加味いたしますと、どれがベストかということに関しては、私はそれぞれメリット、デメリットがあると思いますので、ここでどの時点でメリットか、あるいはこの時点までとってメリットなのかということは、もう少し詳細にですね、あるいは地域ごとによっても違います



ので、それはまた御説明を改めてさせていただければというふうに思っております。非常に難しい問題です。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に難しい問題だから、私もたくさんの住民の方からの意見をお聞きするわけです。本当に難しく、今は高齢化が進んでまいりました。いろんな意見があります。年寄りの年配のひとり暮らしの方たちは、もうこれはつけんでもいい、これだけここに800千円、1,000千円出したら私たちの生活は大変だから、せんという方。それから、市町村型をつけたにしても、後々のことを考えると維持ができない。どうしたらいいかと、本当にそんな切実な問題が寄せられるのです。そして、ある面、市長がおっしゃったように、浄化槽をしているけれども、やぐらしかと、いつもいつも検査があって、掃除をしたり、それもお金がかかる。もう下水道にした方がいい。でもあなたのところは点在しているところだから下水道するには行政としては大変なお金がかかる。本当にたくさんの問題を抱えております。でも最終的にはそこまで持って行って住環境をよくしていただきたいという私たちの願いもあるのです。

どちらを取る、本当に難しい問題でございますけれども、どうぞ市長は今までお考えになりましたように、これこそ住民のいろんな意見を聞いていただいて、アンケートでもっていただいて、そして本当によりよい下水道の整備をさせていただきますよう要望して、次の質問に移りたいと思います。

次に、市長の最重要課題とされております障害者に優しい市づくりについて質問をいたします。

これは本当に私ごとですけれども、今回の選挙でちょっとひざを傷めまして、しばらく不自由な日々を過ごしてまいりました。初めて武雄市の庁舎に参りましたときに、議場まで来るのが本当につらかったのを覚えております。エレベーターは2階までしかないし、あと3階、4階は階段だし、そしてまた、本当に小さな段差でもひっかかるし、つまずくし、身をもって障害のある方の大変さということを体験できました。そしてまた、庁舎内だけじゃなくて、ちょっと外も歩いてみましたけれども、本当に障害を自分が持って歩いてみられたらわかると思いますけれども、議場に来るのも大変ですけれども、町を歩くのも大変です。市長がおっしゃる本当に障害者に優しい市づくりというのは、目の前にたくさん課題を抱えているように思います。

健康のときには本当に理解できませんでした。このくらい何のことあるかと思っておりましたけれども、障害というのはこんなにつらいものなのか、そして人には見えないものなのかということを体験いたしました。そしてまた、庁舎に来て驚いたことには議場のある4階には女子用のトイレがありませんでした。これにも私は驚きました。男女共同参画推進を県

下先駆けて進める武雄市として、本当に女性蔑視じゃないかと言われても仕方のないことじゃないかなあと、びっくりいたしました。でも、幸いなことに、それは早速に女性の洋式トイレをつくるということをお聞きして、図面も見せていただき、よかったなと思っています。

そして、そのトイレのことですけれども、この庁舎内のトイレも全部使わせていただきました。そして、いかにやっぱり私たちの生活に一番密着しているトイレでさえこんな状況か。そしたら、やっぱり市長は初めて来られていろいろわからなかったと思いますけれども、本当に障害者に優しい市づくりをするのは本当にこの足元からしなくてはいけないんじゃないかなと思いました。

済みません。庁舎を初め私が質問したいのは、公共施設、特にここは市民が一堂に集うところです。必ず市庁舎には来るところです。ここがこういうふうであるということ。じゃあ、ほかの公共施設はどうなっているのか。学校初め公民館など、今の私が言いました障害者に対する思い、そういう面から見たときにどういう見直しをすべきところがあるかということ。をどのくらいまで把握していらっしゃるのか、私もお聞きしたいと思っています。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

公共施設はいろいろあるかと思いますが、まず学校等の教育施設についての状況を御説明したいと思います。

各施設ちょっと回りまして、例えば学校で申しますと、スロープとかがないとか、階段がないというようなところが幾つか散見をされております。また、ほかに車いすが使えるトイレとか、そういった課題も幾つかあるようでございます。また、公民館についても今後、改善を要するものが幾つか見られました。あと文化会館とかエポカル等については大体改善ができていうふうになっております。軽微なものについては、今後年次計画でそういったバリアフリー化を進めていきたいというふうに思いますが、大規模な改造等を要するものについては、施設の改修時期等に合わせて改善を図っていきたいと、こういうふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

市の福祉施設の関係の状況を答弁いたします。

市の施設は4保育所と北方町にある老人福祉センター長寿園、武雄町の日輪荘であります。いずれもバリアフリーが問題化される以前に建設されています。保育所についてはバリアフリーを含め、危険箇所など問題がある箇所については随時改修を行ってまいりました。老人

福祉施設については、長寿園は便所の改修、エレベーターの設置、日輪荘においては平成8年の改修時に玄関の段差解消、平成12年にはエレベーターの設置を行っております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

大体状況はわかりましたけれども、私が回って、見たり聞いたりしたところによりますと、小さな改修はそれぞれ随時されておられるようですけれども、学校につきましても本当に財源が厳しいということはわかっておりますけれども、ある学校は3階にはトイレがないとか、本当に少子化の中で子供たちを大事にしていかなきゃいけない、快適な中で勉強をさせていきたいと思う中で、3階にトイレがないというのはどういうことなのかとかですね。それから、今は本当に学校も障害児がふえました。それから、身体障害、知的障害児もですけれども、本当にだんだんふえてきておる状態だと思います。そんな状況の中で、車いすで来た子供たちが学校で健常児と平等に学ぶことができる状態にあるかということですね。本当に危惧いたします。これではできないなあということを把握してまいりました。

でも、今それぞれの部長さん方がおっしゃったように、随時しているということですが、本当に学校は、子供たちは一年一年進級していきます。随時しているうちに卒業してしまいます。それで本当に財政厳しい、財政困難の中とは思いますが、そんなに莫大なお金をかけて改修とか改築とかしなくても、小さな箇所はできると思いますので、本当に早急に取り組んでいただきたいと思っております。本当に学校も行かれてみるとわかるし、それから皆さんも私たちも障害者になって考えてみれば、口先だけで障害者に優しい云々かんぬんと言っておりますけど、実際になったときに、本当に同じ市民でありながら、平等に何でもできるかということを考えていただきたいと思っております。

では、今おっしゃったような計画をとにかく早く確実に安全にさせていただくことを望んで、次に移りたいと思います。

次に、道路についてお尋ねいたします。

この道路についてもですけれども、全市内くまなく歩くだけの健康状態ではなかったもので、今回、私が見た、そして感じたことについて全体的なことをお尋ねしたいと思います。もう皆さんも御存じだと思いますけど、道路の路面状況は本当に悪くて、歩道の設置がないところも多く見受けられました。道路についてはこのような状態を行政としてはどのように把握をされているのか、お尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

道路の状況でございますけれども、各地域ローテーションを組んで、現在、職員が巡回を

し、点検補修を実施しているという状況でございます。ただ、危険箇所につきましては各種団体、道路管理者、交通安全管理者等が点検をなされた後、連絡を受けた部分、こういったものにつきましては現場確認を早急に行い、職員で対応できるものは応急処理、それから規模が大きいものにつきましては工事を発注して対応しているというふうな状況でございます。

議長（杉原豊喜君）

8 番上野議員

8 番（上野淑子君）〔登壇〕

大体そういう状況だと思いますけれども、道路の計画の見直しというのはどういうふうになっているのかと思います。建設じゃなくて、補修といいますかね、ここに穴がほげたからここを修理しよう、こっちができたからこっちというふうに応急処理じゃなくて、計画というのは大体どういうふうになっているかということをお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

道路の改良でございますけれども、道路の改良につきましては、急いでやらなきゃならない緊急的なもの、そういったものにつきましては予算を組んで道路改良を図っていくというふうに計画をいたしておりますが、財政状況等々勘案しながらのことでございますので、なかなか進んでいないのが実情でございます。おっしゃるとおり、応急的な処理というもので現在は対応しているのがほとんどだというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私の方から今後の方向性について答弁をいたします。

私は既に具約に載せておりますけれども、ナンバー26のところ、高齢者、障害をお持ちの方、子育て中の皆さんが積極的に社会参加できるよう市街地バリアフリーマップを策定し、その上でユニバーサルデザイン計画を策定しようというふうに思っております。

私は、バリアフリーの考え方については、すぐしなきゃいけないところ、あるいはこれは言い方が悪いですが、ちょっとまだそれが終わってからってところと、いろいろあると思います。これには計画的に計画に沿ってやりたいというふうに思っております。したがって、計画的な部分と、先ほど部長が答弁した緊急避難的なところ、これをあわせて今後やっていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

8 番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

わかりました。具約26のことについて、本当に実現できることを楽しみにしております。それから、もう一つ質問ですけれども、巡回パトロールというのはどういうふうな計画でなさっていらっしゃるのか、聞きたいと思いますが。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

現在、職員が1名配置をされておりまして、この職員が巡回をしながら回っております。それと同時に、この職員が緊急的なところについての補修を同時に行うというような形でやっております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私の方から補足といたしまして、危険箇所につきましては各種団体、道路管理者、交通安全管理者が一体となって職員1人をカバーするような仕掛け、仕組みを実施しております。しかし、これにつきましては、点検範囲については、何分、人の措置がありますので、安心歩行エリア内1キロを点検しておるといった状況であります。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

わかりました。それではもう合併して何カ月になりますけれども、どの地域も全部回られてお気づきの点があったと思いますが、大体の状況をお知らせください。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

3月に合併をいたしましてから既に3カ月以上経過をいたしておりますけれども、緊急補修的なものの要請が多々ございますので、その対応等を兼ねながらやっております関係で、職員がすべての地域を回ったというところまでにはまだ至っておりません。今、随時全市的に回るという形でさせております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に広い地域で、1人で回られるのは大変だと思いますけれども、巡回パトロールというのを本当に重視していただきたいと思います。せんだっての大水の時も大変だったと思いますけれども、私たち北方町にしる大水の地域、山の地域いろいろあります。私も選挙で回ってみて、ああ、大変な地域があるなあということも認識しておりますので、どうぞ巡回パトロールをできれば人数でもふやされて、本当に確実に回っていただけて見ていただくようにしたいと思いますが、巡回パトロールについては、ただ回りましたじゃなくて、真剣に回っていただきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

建設部につきましては、道路の関係は北方支所、山内支所、両方にもございますので、その両課長並びに担当職員、それから私とうちの課長、担当職員と一緒に一応、今現在、山内、武雄、北方を2回巡回させていただきました。ただ、これは主なところだけになっておりますので、再度、もう少し細かい点まで巡回をしようということで、それぞれ課長も認識をするようにということで今計画をいたしております。そこら辺で、そういう緊急にしなきゃならないところ等々がありましたら、早速やっていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も先ほどの議会答弁のやりとりを真摯に受けとめて、この人員についてはふやそうというふうに思っています。しかし、そこで一つお願いがありますのは、ふえるとそれがまたほかの行政にしわ寄せがいくことを御理解願いたいというふうに思います。したがって、これをふやすということは、ここの部分は削んしゃいということもあわせてお話しただければ非常にありがたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

とにかく財源に基づいてということで、それは重々わかります。こっちをふやせばこっちを減らす、それもわかります。こっちも減らされては困る、あっちも減らされては困るというのが私たち住民の考えでございます。ですから、このときの提案でありますけれども、それぞれの地区にいろんなボランティアの方がいらっしゃるから、その方たちから情報を集めるとか、いろんな方法も加味していただければなと思っております。

それから、先ほど市長が優先順位をするのは本当に大変だ、いろいろ本当に優先順位を決めるのも大変だと思いますけれども、この道路に関しましては、私たち住民も本当にみんな

真剣に自分たちの毎日歩く道ですから思っております。どんな優先順位でされるのかというのを私たちはいつも見ております。ですから、本当に我々住民に納得できるような優先順位をみんなに公開していただいて、そして道路に取り組んでいただきたいなあと思っております。

では、次に移ります。次に、エレベーター設置についてでございます。

これも本当に財政にかかわることなので、言っているのか、いけないものなのか、本当に悩みます。市長の話聞いていて、財政を見ながらでも、ないのはわかっておりますけれども、こちらもこれがないと困るというので言わせていただきたいと思っております。

本当にエレベーターの不便さというのは今まで庁舎に訴えというか、苦情というのはなかったものなのか。それから、エレベーター設置についてはどのようなお考えなのか、お聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

まず、庁舎の建設の経過を若干申し上げますと、昭和41年に建設をされておまして、非常に今庁舎が建っております場所は地質が軟弱地盤で、当時、たびたび水害に見舞われていたというようなことで、構造上、現在のような1階に機械室、そして2階に市民向けのフロアを設置した窓口部門を設置しております。そういったことで、非常にバリアフリー的な問題も指摘をされまして、平成7年に2階までにエレベーターを設置しております。ただ、先ほど申し上げましたように、庁舎の構造とかたびたび出てはいますが、財源等の問題等で4階までのエレベーターは現在設置できないという状況でございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も余り財源、財源と申し上げるつもりはありませんけれども、ここで2点について考えていただきたいというふうに思っております。

1点目は、庁舎の構造を考えた場合に、これは耐震構造になっていないことからすると、果たしてここにエレベーターをつけて、そのまま市の、あるいは新幹線が通ったりします。そのときに本当にその応急措置でエレベーターの場合50,000千円、エスカレーターの場合は16,000千円というふうに言われております。それをつけていいものか。それが、あるいはちょっとこれは市民の方々に我慢をしていただいて、新たに庁舎をこの際、建てた方がいいのか。これは合併特例債の期限もあります。そこは市民的な議論が私は必要だというふうに思っております。私はつけることについてはやぶさかではありませんけれども、庁舎全体の問題としてこの際考えるべき問題ではないかというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

8 番上野議員

8 番（上野淑子君）〔登壇〕

わかります。必要性もわかっていらっしゃると思います。しかし、それではこのままにしておいていいのか。庁舎の建設をするにしても、あと何年かかるのか、まだ計画もあれだと思えますけれども、そういうところを考えた場合に、一般の私たちから考えたときに、4階のこの議会に、私たちは開かれた議会、開かれた行政というのをみんなで見て、みんなで判断し、みんなで聞いて進めていこうという市長の考え方に対して、では車いすの方はここまで来てはいけないのか。それは言われたんですよ。車いすがない、私たちの県の婦人会館ですけれども、エレベーターがありません。それで3階まで会議室はありますけれども、そのときに車いすで来られた方は、じゃあ、私たちが拒否するんですかと、そういうことがあっているんです。それで、そのときは本当に、ああって、今は一生懸命エレベーター建設について基金を婦人会の方でためております。

それで、本当に私たちは平等だ、本当にみんなでしていこうって口ではきれいなことを言っておりますけれども、じゃあ、ここにどうして来られますか。今言ったのと同じじゃないでしょうか。あなた方は来ないでいいよ、聞かなくていいよ、そういうんじゃないでしょうか。じゃあ、そこを何とかお金、お金で済みません、わかっております。ないのもわかります。市長が建てたい、つけたいという気持ちもわかります。何とか私もそれを言われた方たちにとって、こうですよという本当にしっかりした言いわけじゃありません。理由を言えないのは本当に苦しい。本当に建て直したらお金も要るし、そいぎ、ほかのところにもそれこそ予算がなくなって、ほかのとができないようになる。それもあなたに来ちゃいかんよとは言えない。苦しい立場ですけど、いかがでしょう。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

非常に重要な質問だというふうに思っております。私はこのように考えております。例えば、JR九州で博多駅が今改修工事を行われております。佐世保市に行く線、長崎市に行く線は車いすを御利用の方は職員が即座に反応をして上に上げて行っていただいていると。私はそれを見て、一つの方向性がそこにあるのではないかなというふうに考えております。市役所で考えた場合には、今でもそのようになっておるかどうかわかりませんが、そういったお話があった際には、私も含めてこちらの方に上げることはやぶさかではございませんし、むしろ積極的まずそういった現実的な面から私は考えたいというふうに考えております。これはまじめにそのように考えております。

私はもし、エレベーターの設置が5,000千円であつたら、あるいは10,000千円だったら、



市長の立場として、それを直ちに裁可をし、皆様方に御提案を申し上げたところであります。しかし、議会に上がるために50,000千円。私は開かれた市役所、あるいは議会というのは私もそのとおりであります。しかし、それが果たして市民合意を取り得るか。その50,000千円があったら、こういった福祉の施設整備に回した方がいいんじゃないかということは、私はあると思います。カバーできる分は職員がみずからカバーをしていきたい。この点については、そのように真摯に考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

気持ちとしては本当に皆さん一緒だと思います。じゃあ、市長がおっしゃるように、その50,000千円が福祉の方でどう使われるか。でも、本当にたった1人のためになって、管内の市の学校でも1人のためにエレベーターをつけていただいた学校もあると聞いております。でも、本当に維持費とかなんとかも大変だということも聞いております。それもわかります。でも、私たちはみんな平等に、それこそ温かいぬくもりのある市だということを示すためには、本当に苦しいですけれども、どうか考えがないものかと思います。もう一度、それは市長もいらっしゃる、抱えていくと言われると思います。私も思いました。2階までエレベーターで来て、ああ、3階、4階、歩ききらんけん、どがんしゅうかなと思って、助けられながら来ました。1階には車いす御利用の方はおっしゃってくださいと書いてあります。でも1階で車いすを借りたとして、2階まで来て、あとどうすればいいのかな。だから、本当に気持ちはわかりますけれども、その身になったら「市長さん、車いすば3階、4階まで抱えていってください」とか、そこにいらっしゃる、みんなばたばたして働いていらっしゃる方々にですね。

本当に今すぐどうこうしなさいという返事はできないと思いますけれども、庁舎内をもう一度くまなく見て回って、何とかできる方法がないものか、本当に考えていただきたいと思いますが、いかがでしょう。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私が4月16日に着任して以来、最も最初にした仕事が見て回ったことであります。私はこれを最優先課題と上げて、どういったことができれば開かれた市役所、あるいは議会になるのかということ、最優先課題として私は取り組んできたつもりであります。その観点からすると、私は現実的な解決策として、車いすを御利用の方は2階まで上がってきていただいて、3階、4階にお手伝いをして運んでいくというのが、現実的にはベストだというふうに思っております。本当は私も財源、財源と言いたくありませんけれども、箱物、ハー

ドをつくるということは、それは理想論だと思います。ただし、それを言い出すと話が進まない。したがって、現実的に何ができるか、何をやれば少しでも改善の前進の道ができるか、それを私は考えていきたいというふうに思って、先ほど御答弁いたしました次第であります。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

市長の気持ち、考え方、十分にわかりました。本当に私もそのとおりです。ですから、本当にエレベーターはできない。それ何とか方法を見つける、そのことを本当に皆様に約束していただいて、市長のその温かい心が必ず早急に伝わることを念じて、きょうはそれこそ抱えてきていませんので、多分車いすの方も議会には来られていません。次回は必ず来られるように、前向きな取り組みをお願いしたいと思います。

そして、本当に福祉の面について、バリアフリーについてはもっと言い出せば切りがないほどたくさんありますけれども、今の市長がすべてはここから見て回ったという気持ちをお忘れにならないで、どうぞ市内を見て回られて、みんなが快適に、本当にぬくもりのある市として楽しく過ごしていけるようにしていただくことを期待して、すべての質問を終わります。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

それでは、以上で8番上野議員の質問を終了させていただきます。

ここで11時5分まで暫時休憩をいたします。

休 憩 10時51分

再 開 11時5分

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

10番吉川議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。10番吉川議員

10番（吉川里己君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、私、吉川の一般質問をさせていただきます。

まず、質問に先立ちまして、この4月の合併選挙におきまして市民の皆様の圧倒的な御支持を得て市長に初当選をされました樋渡市長に対しまして、まずは祝意と敬意をあらわしたいというふうに思います。

全国最年少市長として連日テレビ、ラジオ、あるいは新聞等のマスコミにおいて報道され、本当にうれしい限りでございます。これからもぜひ息切れをしないように、市民のために、武雄市のPRのために連綿と続くことを期待するところでございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、質問に移りたいというふうに思います。

これからますます少子・高齢化が進み、さらには景気の低迷、雇用不安が残る中で、制度面の一大改革が行われている昨今でございますが、市長は今回選挙で市内をつぶさに回られ、市内の実情を体感されたことと思いますが、これからの任期の4年間、極めて難しい時代背景の中で数多くの課題にどのように対処し、市民の負託にこたえられようとしているのか、お伺いをしたいというふうに思います。

まず、第1点目に地域振興についてお伺いをいたします。

今回の選挙におきまして、私も各地域をくまなく回り、そこで多くの市民の皆様から直接貴重な御意見を拝聴し、また、地域の実情をつぶさに見てきたところでございます。その中で特に感じたことは、総じて停滞から衰退ぎみに移る側面が多々見られるということでございます。商店街の不振、インフラ整備のおくれ、少子・高齢化の急ピッチな進展等、空き家の増加など年を追うごとに進んでいることがあります。その要因としては、雇用の場が少ないことによって地域内で若者の定着が見られず、同時にお年寄りだけの世帯がふえてきたということでもあります。基本的に魅力のないところには人は集まらないし、残らないわけでありまして。何といたっても経済活動にあると思うわけでありまして。これまでのように手をこまねいていけば、人口減少と所得格差の面で厳しい状況が続くことが懸念をされます。

そこで、本市の地域振興について、今後発展を図る観点から中・長期的視点に立ち、既存産業のさらなる振興を図るとともに、新たな産業の集積を図るなど新しい活力を生むべく地域振興を市長はどのように考えられておられるのか、お伺いをしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私は、さきの選挙でまちづくりの具約として42項目を既に出しております。できるものから肅々と着実に一生懸命やっていきたいというふうに思っております。その中で3点申し上げたいと思います。

一つは、企業誘致、あるいは既存産業の集積を含むまちのにぎわいをまず取り戻していききたいというふうに思っております。まずにぎわいでありまして。

2点目であります。観光にもう一回目を向けたいと思います。今般、合併を伴って山内町が旧武雄市と一緒になった、観光の魅力はかなり増したというふうに思っております。観光面に私は力を入れていきたいと思っております。

3点目でございます。3点目は私自身であります。私自身がこの武雄ブランドを一生懸命皆さんとともにつくって、それで全国にトップセールスをしていきたいというふうに考えております。外に開かれた武雄、あるいは副市長制を導入いたしましたので、そこは責任分担、

あるいは役割分担を果たしながら一生懸命していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

10番吉川議員

10番（吉川里己君）〔登壇〕

今回の選挙戦を通じて発行されました具約の42を通じてやっていくんだと。具体的には重点課題として企業誘致、そして、既存産業等のにぎわいを持たせる、観光に力を入れていく、武雄のブランドを構築して全国に発信をしていくというふうなことであります。

これまでの工業社会の中では、やはり企業誘致が地方の活性化の切り札であったわけでありませうけれども、もう一つ、脱工業社会の中での切り札としては、やはり今度は人の誘致になってくるのではないかなというふうに思うところでございます。企業も人もやはり誘致をするには、その地域にどれだけの、市長が言われるにぎわいを持たせるのか、私の言い方としてはどれだけ地域にときめきがあるかということが決め手ではないかなというふうに思うわけでありませう。行政に一番今求められるのは、武雄市のビジョンをはっきりさせて、まず第1はトップセールス、そして、人脈のネットワークを築いていくことが最優先ではないかなというふうに思うわけでありませう。

先日、医学博士の服部幸應先生と懇談をする機会があったわけでありませうけれども、服部先生は現在、栄養専門学校理事長、校長として活躍をされております。そしてまた、食育を通じてテレビやラジオで活躍をされておる方で、樋渡市長とは以前から大の友人であったというふうにおっしゃってございました。近年、殺傷事件などキレる子供たちの犯罪が社会問題化をしておるわけでありませうけれども、ある調査によりますと、いつもいらしている中学生の数が全体の38%、そして、その予備軍である小学生が12%、全体の約9割の子供たちがたまにいららすという結果が出ておるわけでありませう。その原因の一つには、やはり食生活の変化があるというふうに言われておることで、体だけでなく精神的にも、心にも深刻な影響を与えてきておるようでありませう。

そのような状況の中で、武雄の基幹産業であります農業や観光の一つの起爆剤として、また、子供たちの肉体的、精神的な構造をつくる食について服部先生のお力をかりれば、食育と地域振興の両面から効果を上げることができるのではないかなというふうに考えるわけでありませう。前回、服部先生とお会いしてそういうことを痛感したわけでありませうけれども、市長もこのアドバイザー制を登用していきたいということで、具約42の方にもうたわれております。このアドバイザー制をどのように今後具体化されていくつもりなのか、お伺いをしたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

市政アドバイザーにつきましては、先ほど御指摘がありましたように具約の42に掲げております。私は今のところ、お二方を想定しております。その一人が先ほどお話が出ました服部幸應先生であります。もう一方は、ちょっと今人選中でありますけれども、農業、とりわけ野菜の全国的な専門家にぜひ来ていただきたいというふうに思っております。いずれにいたしましても、このお二方につきましては相手のある話でありますので、これから交渉を始めますけれども、今のところそのように考えております。

特に服部幸應先生に関して言えば、私が趣味が料理だということを服部先生との会議のときに申し上げたところ、非常に気に入っていただいて、そこから食育の大切さであったりとか、あるいは子供と親の関係であったりとか、さまざまなことを直接教えていただく間柄になりました。きっかけは何が幸いするかわかりません。これを今回、私とのつながりではなくて、さらに武雄市民とのつながりまで持っていきたいなというふうに考えております。まとめ次第、市政アドバイザーということで私は予算を計上し、皆様方とよく相談をしていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

10番吉川議員

10番（吉川里巳君）〔登壇〕

服部先生ともう一方、人選中だということでもありますけれども、やはり食といったものは生命の源であります。そしてまた、地域においては産業と密接に関係があるわけでもあります。そしてまた、昨年6月、国会の方で通りましたけれども、食育基本法が制定をされております。自治体もその責務を負っておるわけでもあります。ぜひ地域の皆さん、住民の皆さんの視点で地域にときめきを与えるような政策立案をぜひお願いするところでございます。よろしく願いをいたします。

次に、弾力性ある財源を求めての質問であります。

さきの上野議員の御質問の中でも浄化槽の設置とか、エレベーターの設置とか、そういったもろもろの投資の要求がこれからどんどんどんどんふえていくわけでもあります。そういう状況の中で、やはり財政構造の弾力化を図らなければそういう投資もできないわけでもあります。

この財政の弾力化を示す端的な指標といたしまして、経常収支比率がございまして、これは税収とかの経常収入に対します支出、人件費とか扶助費、あるいは公債費等の支出を割ったものでありますけれども、平成18年度の見込みではもう武雄では90%を超えておまして、19年度が92%というふうになっておまして、どういうことかといいますと、100%になると投資的経費がゼロになるということで、武雄市の場合も投資的経費の余裕のなさをこの数

字があらわしておるわけでありませう。

また一方、公債費比率を見ても、これは交付税を含めた一般財源に対する公債費、要は借金払いの割合でありますけれども、平成18年度武雄市の状況を見ても、16.5%が見込まれております。これは合併のときに出していただいた資料なんですけれども、平成24年度以降は20%をずっと超えていくという見込みがされております。警戒ラインと言われる15%をはるかに上回っております、今後も上昇していく傾向があるわけでありませう。

そして、もう一つは地方債現在高、これは平成13年度から臨時財政対策債というのを国の方が発行いたしまして、対策を行っていったわけでありませうけれども、それを踏まえてこの地方債もぐんぐん伸びておまして、平成18年度の状況としては241億円、武雄市で地方債、借金を持っているということです。歳入総額から見ると1.3倍、一般財源総額から見ると1.7倍ということで、将来にわたる財政負担が大きくなっておるわけでありませう。

それともう1点の角度から見ても、将来の財政需要に備える基金、貯金でございますけれども、その内訳を見ても、年度間の財源調整を行う財政調整基金、これが武雄市では今年度370,000千円、財政調整基金の中の25%の大幅な取り崩しをされております。そしてまた、公共施設整備基金、これが4億円、全体の20%ということで、いずれも厳しい台所事情がこの基金取り崩しに、今年だけじゃなくてここ数年続いております。

そういう状況の中で、これから社会資本整備を初めさまざまな事業、あるいは施策に取り組んでいかなければいけないわけでありませうけれども、そういう状況の中で、やはり徹底した事務事業の見直しなど財政当局にとっては非常に厳しい正念場に差しかかっておるわけでありませう。まさに知恵と工夫の出どころという感じがするわけでありませう。

これからの市政の課題に対して対応をしていくためには、安定的な財源確保をどのように図られていくのか、平成17年3月に閣議決定をされました行財政改革推進のための新たな指針策定に基づいて、今回、行財政改革推進本部会議を立ち上げられておりますけれども、その取り組みの内容と目標についてお尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

前田企画部長〔登壇〕

お答えをしたいと思います。

行政改革につきましては、合併の目的である非常に最も重要な課題として取り組んでいきたいと考えております。そういうことで、新市においては行政改革推進課を設けております。今年度内に武雄市行政改革大綱の集中改革プランを策定したいというふうに考えております。

それから、基本方針としては、行政経費の削減だけではなく、企業誘致、あるいはそういうことで新たな財源を生み出して市民のニーズにこたえ、質の高い行政サービスを目指したいというふうに考えております。

それから、庁内の推進体制でございますが、既に行政改革推進本部会議を設置しております。これは市長が本部長、それから副本部長に副市長ということで、本部の委員が各部長ということになっております。それから、そのほかに各課長によります推進部会、これが実際に行革を推進する部会でございます。それから、担当の幹事会と、そういうことで設置を既にしております。

それからもう1点は、市民の意見を反映させたいということで、これは議会が終了後、7月ぐらいに設置を予定しておりますが、武雄市行政改革市民会議を予定しております。メンバー的には学識経験者、あるいはいろんな団体の推薦、それから公募によっても委員を選定していきたいと。

それともう一つは、パブリックコメントの実施も考えております。

それから、議員お尋ねの目標としては人件費、物件費の行政経費の見直し、これは当然でございます。

それから、官民協働のまちづくりということで、民間活力の導入も考えております。

それから、当然市民の意見を反映させた事務事業の推進をやっていきたいということでございます。

それから、先ほど申し上げましたように、財源の確保のために企業誘致の推進等もやっていくということになるかと思えます。

それからもう一つは、先ほどからいろんな市民のニーズがっておりますけれども、質の高い行政サービスを提供するために歳入面の使用料、あるいは手数料の住民負担の適正化に努めたいということで考えております。

そういうことで改革を進めるに当たりましては、市長がいつも言っておりますが、スクラップ・アンド・ビルド方式をぜひ取り入れて行革の推進に努めていきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思えます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

基本的な方針は先ほど部長答弁のとおりでありますけれども、私は1点、そこに加味したいというふうに思っております。それは財政の難しさであります。臨時財政、臨時、私が言い間違えるぐらいですから、臨財債であったりとか、あるいは地方交付税交付金、これには特交があったりとか、はっきり言って一般の市民、私も含めてようわからんことなるとです。したがって、これを財政家計簿としてわかりやすく市民の皆さん方にまず提示をしていきたいというふうに思っております。

例えば、地方交付税交付金であれば、これは東京からの仕送りだと、使用目的については自由に使っていいといったりとか、さまざまな工夫を凝らしてこの家計簿をまずつくって

きたい。これをあわせて先ほど部長から答弁があった集中改革プランに載せて、こういうふうになっているというのをわかりやすく具体的に私は示していきたいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

10番吉川議員

10番（吉川里己君）〔登壇〕

行政改革推進本部会議の第1回目を立ち上げられたと。次は行政改革の市民会議ですか、これを7月に立ち上げていくというふうなことであります。

具体的な目標としては、先ほど出ましたけれども、やはり人件費とか物件費等の行政経費の見直しをすとか、あるいは使用料、手数料の適正化を図っていくというふうなことで進めていくということであります。

もうちょっと見てみますと、平成18年度の武雄市の一般会計予算の支出の部分からちょっと見てみますと、やはり一番多いのが人件費であります。40億円で、全体の21%を占めております。次が福祉関係に使われる扶助費、29億円、これが16%。3番目に多いのが公債費、これは借金の返済です。24億円、13%という、ワーストの方からいきますと三つあるわけにありますけれども、やっぱり人件費がまだまだ一番多くかかっておるわけにあります。地財計画の方でも定員の削減、あるいは事務事業の見直し、それから民間委託の推進というふうな方針が強く打ち出されておるところでございますけれども、やはりこの人件費のスリム化は行革において大きな比重を占めておるわけにあります。

そういう状況の中で武雄市もいろんな改革に取り組まれておりますけれども、その中で公立保育所がございまして、6カ所あったんですけれども、この民営化を含めた管理運営の基本計画及び実施計画を平成12年の9月に策定をされております。目標年次が平成20年ということで計画を打ち出されておまして、もう既に6年が経過をしておりますけれども、昨年、担当部の皆さんの努力によりまして、ようやく東西の川登保育所の民営化、統合が図られたわけにあります。しかし、朝日保育所、それと朝日第二保育所、それと若木保育所、この三つについては、あと目標年次まで2年しかございませんけれども、全く手がつけられていない、めどが立っていない状況にあるわけにあります。やはり財政面から見ていきますと、保育所の運営費、国の基準に対して大幅な超過となっております。毎年約1億円近い赤字を出して、一般会計を圧迫していつておる状況にあるわけにあります。そういう認識に立てば、もうそろそろ今後の公立保育所の統合、民営化の実行計画を早急に示して、地元の皆様にも示すべきだというふうに思うわけにあります。

特に朝日町においては、約10年前から町民グラウンドをつくってほしいという建設の強い要望がございまして。私も常々、保育所と町民グラウンド、そして、朝日小学校は三位一体のセットで考えて、同じロケーションの中で朝日町のコミュニティーをつくるべきだということ



とで主張をしてきておるわけでありましてけれども、その町民グラウンドもございまして、今後どういう計画で保育所の統合、民営化を進められようとしておるのか、お伺いをしたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、朝日保育所、朝日第二保育所については1カ所に統合し、民営化することが基本的方針であります。統合保育所は新設と考えており、事業開始の時期は平成21年4月からとなるというふうに考えております。

ただ、それに至るまではさまざまな関係者との合意形成、あるいは用地取得等々がありますので、しかし、先ほど議員がお話しされたとおり、これは財政負担がおくれることによって伴うことにもなりますので、可能な限り早く、私は21年4月からやりたいというふうに思っております。その際に、私も先ほどありました朝日小学校、それと住民の皆さんが望んでおられるグラウンド、それとこの保育所については、私も3点セットだというふうに思っております。これによって事業の効果的な波及、あるいはできるだけ財政がそれで抑えられるという観点からも、私もそれにサインを出したいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

10番吉川議員

10番（吉川里巳君）〔登壇〕

平成21年度4月ですか、開業を目指していただくということで明快な答弁をいただきましてありがとうございます。やはり財政的な観点から、自主財源を確保していくという観点、それと町民の皆さん、市民の皆様のニーズに合った取り組みを早急にやっていただきたいというふうに思うわけでありまして。

次に、市役所の常識を破る改革の中の職員の活性化についての質問でございますけれども、職員の採用においては、今までは大体定期採用をしてきておったわけでありましてけれども、例えば、中途採用とか、あるいは5年の任期付きの採用を認めるとか、あるいは障害をお持ちの方、こういった方にその採用枠を広げるとか、やはりこれまでは新卒者をとっていたわけでありましてけれども、なかなか見きわめることができないような状況にあったわけでありまして。行政、あるいは社会のニーズに合った実績を持った人材を確保する取り組みもそろそろ取り入れていっていいんじゃないかなというふうに思うわけでありまして。一度民間企業で体験をされた社会人の方が市役所に入る。そして、民間の感覚で仕事をさせていただくことは、職員の皆様にとっても大きな刺激になるかというふうに思うわけでありまして。やはり人は刺激を受けないとなかなか成長をしていかないものでございまして。この職員の意識を覚せいするための仕掛けについて、市長の所見をお伺いしたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今後の人事採用について私から答弁をいたします。

まず、私も基本的な線では先ほど議員がおっしゃった線とは同じであります。例えば、来年、まだ確定的な数字は言えませんけれども、2割から3割の方については全国公募をかけて、民間、あるいは自治体から公募をする、あるいは障害をお持ちの方を採用する、そういったことをその割合の中で私は考えていきたいというふうに思っております。ですので、新卒の方も私は大事だというふうに思っております。バランスのとれた雇用を目指していきたい。したがって、100%新卒採用というのは、私もこれからの行政、あるいはこれからのまちづくりを考えた上では余りなじむものではないというふうに思っておりますので、申し上げたとおり、そういったいろんな分野からバランスのとれた、しかも、地元採用、あるいは新卒採用も含めて私は採用していきたいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

10番吉川議員

10番（吉川里己君）〔登壇〕

ぜひ現行の制度とか、あるいは組織、このままで、本当に今までどおりでいいのかということ一度白紙に戻して、ぜひ行革、聖域に踏み込んで取り組みをしていただきたいというふうに思うところでございます。

それでは、次に道路行政についてお尋ねをしたいというふうに思います。

本市の均衡ある発展と市民生活の向上を図るために、基本的な資本であります道路網の整備要望があるわけでございます。私もかねがね道路が変われば地域が変わるというふうに考えております。国道498号、これは鹿島から武雄、伊万里を經由して佐世保に至る県西部地域の幹線道路でございます。また、長崎自動車道、武雄北方インターへのアクセス道路としても非常に重要な路線というふうになっております。また、近くには国道34号がございまして、この道路整備とも密接な関係がございまして、

国道34号について申しますと、武雄北方インターから江北までの区間、これは県警本部の発表資料によりますと、平成16年の1年間で348件の交通事故が発生をしております。7名の方が死亡、544名が負傷をされております。この武雄市 - 北方町区間だけで大体約2日に1回交通事故が発生をしているというふうな状況をお聞きしております。

その整備状況をちょっと見てみますと、土木事務所の資料によりますと、北方区間で総延長4,631メートルございますけれども、歩道設置延長が3,450メートル、ですから、残り1,181メートル、1キロ近くが歩道なしの状況で、その沿線には家屋が張りついておりまして、既存の歩道設置もなかなか難しいということで、非常に危険な状況に陥っておるような

状況でございます。

さらに平成11年度、これはちょっと古い資料でございますけれども、交通量調査が行われております。これでは1日当たりの交通量が2万4,470台ということで、1時間当たりに換算しますと1,200台、約3秒に1台の車が行き来しているという勘定です。特に朝夕の交通渋滞は皆さん方御承知のとおりでございます。この34号線の改良も含めて国道498号整備促進期成会においては、国の方に平成18年度予算要望をして、早ければ18年度着工できるのではないかというお話も伺っていたわけでありましてけれども、なかなか先が見えてこない。そういう状況の中で、武雄市の区間の現状と見通しについてお尋ねをしたいというふうに思います。

そしてまた、もう1点、市道506号石木線についてでございます。これは武雄中学校から甘久郵便局に通ずる路線でありますけれども、私も今回選挙戦を通じて、主要道路でありながら選挙カーも通れないような状況に、インフラ整備のおくれを痛感したところでございます。そしてまた、市民の皆様からも整備要望が一番多かった、一番強かった路線でございます。この路線は幅員が1.8メートルということで非常に狭く、見通しも悪い状況にあります。住宅も点在をして、生活道路であるとともに、通学路として毎日200数十名の生徒がそこを行き来しているということで、安全確保の面から、あるいは防災対策の面からも早急な改良拡幅が望まれております。私も議員になってから、6年前から要望をし続けておりますが、なかなか前に進まない、前進をしないわけでありまして。これまでの状況はどのようになっているのか、以上3路線について建設部長にお伺いをしたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

お答えを申し上げたいと思います。

国道498号につきましては、少し詳しく申し上げたいと思います。

この路線は県西部地域の幹線道路として位置づけられておりまして、中でも伊万里市境から国道34号までの区間は事業効果、利便性、施工性及び現道との関係を考慮しながら、これまで複数のルートを検討されております。国道498号の出口の方向は、九州横断自動車道武雄北方インターに向かう方向で、国道34号にタッチするというふうに聞いております。特に伊万里港で取り扱う貨物の主要な輸送路であること、大型車の交通量が増加しておることから、道路整備につきましては、松浦バイパスから国道34号までの区間は距離が長いために一度に整備することは県の財政状況から困難であると。まずは若木工区の事業化を最優先して、県では考えていきたいと。

このようなことから、武雄土木事務所にお聞きしましたところ、若木工区につきましては、現在、事業着手に向けた準備がなされておりまして、本年度、伊万里市境から県道多久若木

線までのルートを公表したいというふうに聞いております。しかし、これも事業採択に当たりましては、全国での採択の枠の関係ということで、県土木部としては楽観はできないというふうなお答えもいただいております。

市としましては、国道498号の整備が一日でも早くできるよう期成会等を通じて強力に働きかけをしていくというふうに考えている所存でございます。

次に、国道34号でございますが、国道34号の交通量は先ほど議員御指摘のとおり、朝夕のピーク時を初め非常に多く、緊急車両の通行にも支障を来しておりまして、健全な市民生活の確保に大きな影響を及ぼしております。

市としましても、市民生活の安全を図るため、佐賀西部地区開発推進に関する提案等により国、県に対し歩道未整備区間の整備実施の要望を行ってきたところでございます。現実におきましては、地元においても歩道の必要性は理解はされておりますが、沿線の地権者等々とは生活基盤への直接影響、そういったものがございまして、具体的な実施には至っておりません。このため、平成12年に国道34号バイパス建設促進期成会を設立されております。これは北方町、大町町、江北町3町で設立をされております。バイパス建設の事業化に向けての国への提案活動が実施をされております。この期成会と、それから佐賀地区合同期成会と年に2回の提案活動の実施を佐賀国道事務所、それから江北町、大町町、北方町コンサル合同での国道34号の現状把握、そういったものを行いまして、平成16年度より年6回の意見交換会をバイパス建設に伴う新たなまちづくりとして実施をされております。

ただ、この地域は国道34号とJR佐世保線、それから六角川が非常に接近をして並行に走っております。特に大町町では工場も接近しておりまして、道路づくりに非常に考慮すべき点が多く、路線選定が非常に難しく、いまだ路線選定まで至っておりません。そういうことから、国道34号バイパスにつきましては、武雄市としては国道498号との関連もございしますので、早期事業に向けて地元の国会議員さんを初め、国への提案活動をさらに強力に推進していきたいというふうに思っておりますのでございます。

それから、最後になりますが、市道石木線の改良工事でございます。これは数年前より沿線の区からも強い要望がっております。通学路、生活道路としての必要性が非常に高いということで、建設の方といたしましても、現地調査等をし、その認識は十分持っているところでございます。特に通学道路としては幅員が非常に狭くて、車両通行時は生徒があぜ道やのり下に避けるというようなところでございます。また、一部非常に見通しが悪いところがございます。大変御迷惑をかけておりますので、最も早く整備をしなければならない路線ではないかというふうに考えておるところでございます。

議長（杉原豊喜君）

10番吉川議員

10番（吉川里已君）〔登壇〕

国道498号、それから国道34号線の実情はよくわかりました。当初は498号は若木境と武雄インター境から、両方からしていただくというふうなことであったわけでありまして、やはりこの国道34号線との絡みがあってなかなか進んでいない状況がよくわかったわけでありまして、ぜひ一刻も早くそういった地形的な問題、いろんな難しい条件があると思っておりますけれども、整備促進に力を注いでいただきたいというふうに思うわけでありまして。

そして、特に中学校線、中学生が通る朝日町の甘久の石木線ですが、この点についてはやはり十分に御理解をいただいて、早く測量、それから用地買収等々に取りかかりをしていただきたいというふうなことで考えております。建設部長の方も最も整備しなければいけない区間だと認識はしているというふうなことでございますけれども、市長のお考えを、ぜひ建設的な意見を求めたいというふうに思います。よろしく申し上げます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。

私ごとになりますけれども、武雄に帰ってきて以来、選挙期間で新市内くまなく回ったつもりであります。そのときに私がここは早急に直さないと生命にかかわる、あるいは通学路の問題になるといったところが七、八カ所、私が見た限りでもあります。その中に先ほど答弁がありましたけれども、石木線というのはその中の一つというふうに私も考えておりますので、そういった観点から優先度が高い道路改修という意味で私自身も積極的に推進をしていきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

10番吉川議員

10番（吉川里巳君）〔登壇〕

建設部長には大変失礼ですけれども、仏教の教えの中に「一隅を照らす」という言葉がございます。ぜひ日の当たらない地域、そういったところにこそ、行政、あるいは政治の温かい光を注ぐべきだというふうに日ごろから思っております。ぜひ予算措置をしていただきますよう強くお願いを申し上げまして、私の質問を終わります。

議長（杉原豊喜君）

それでは、以上で10番吉川議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、午後1時20分まで暫時休憩をいたします。

休 憩 11時46分

再 開 13時20分

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

9番山口良広議員の質問を許可します。御登壇を求めます。9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

こんにちは。ただいまより私の一般質問を行いたいと思います。午前中に吉川君が頑張れば、私もギャラリーの前で張り切られるかと思いましたが、寂しく一人、ここで頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

さて、私は新市長に対し、元気で活気のあるまち武雄市、きれいで安全で武雄市民が本当に住んでよかったなと自慢できる武雄を私なりに提案していきたいと思います。そのためには、財源対策としての、いや、若者雇用定着のための企業誘致や学校誘致は市長の行動力に期待し、私は地場産業、特に観光や農業面で地道に働き、汗かく人たちが報われる社会を大事にしてほしいことを願って、私の一般質問を行いたいと思います。

年間観光客数も平成10年には119万2,000人からここ数年は横ばいか、もしくは減少というふうな流れが来ています。そんな中で、元の武雄市第4次武雄市総合計画では平成22年には155万人を目標として掲げています。今、新市長はどんな観光に向かっての目標数字や計画を立てておられるか、まずそこからお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

まず、観光の面でお尋ねがございました。私は率直に申し上げまして、武雄、武雄、武雄と幾ら叫んでみても、ちょっと限界があるのかなというのは率直に言って思っております。したがって、これからの観光を考える上で大事なものは、広域的に観光地をアピールすることが大事なんじゃないかなというふうに思っております。例えば、九州三都物語と称して佐世保、唐津、武雄と組んだり、あるいは嬉野と組んだり、いろんな広域的に観光客の皆さんが来てもらって、最終的に泊まるのは武雄ばいということで、そういった広域的な観光のルート連携に私は努めていきたいというふうに思っております。

先ほど平成22年度で155万人という、これは達成不可能であります。したがって、もう少し実のある数字を私は出していきたいというふうに思っております。

さらには観光資源であります。私がびっくりしたのは、例えば、三夜待、あるいはお茶講であります。これは大阪、東京の皆さんからすれば、我々は普通と書いていてもこれはすぐれた観光資源であると。これを観光ルート、あるいは観光の資源として私は出していきたい。これは職員提案でも既に出ております。私はある財産を、今ここにある財産を少しアレンジして観光に持っていく、そういう考え方をこれからもしていきたい。それをうまく情報発信するように首長として努めていきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私は今、武雄の観光を考えたときには、温泉と陶芸、それに山内、北方を含めたすばらしい自然、歴史と風土にはぐくまれた多様な文化や伝統があります。それをグローバルにまとめて、また、市内には学術的には江戸時代、長崎出島より蘭学を中心とした西洋文化をいち早く取り入れた文化があり、そのために武雄は歴史、文化の拠点をつくらうということで、佐賀歴史文化博物館を誘致しようというふうな運動も行ったわけです。それらを含めて、武雄の歴史や文化をどういうふうにとらえ、それを観光に生かしていくかを市長にお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

大変難しい質問で、私もちょっと一言では答えられないかもしれませんが、武雄は私も外から見た目からすると非常にいい観光資源、あるいは文化財産があるというふうに思っております。例えば、御質問で出ました長崎街道、これはまさに私は広域的にやらなければだめなんだというふうに思っております。昔、司馬遼太郎が長崎、佐賀、福岡を街道が行くと通ったときに、まさに佐賀、武雄ではなくて、その街道として広域的に話をされている。あるいは今、例えば、東北地方であります。これは一個の観光地がPRするのではなくて、歴史回廊という形でいろんな観光地と結んで広域的にやっている。したがって、武雄の文化的な財産も広域的にアピールができないかということは今、広域をキーワードに私は考えていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、市長は文化を広域的に見て観光拠点としてやるというふうなことで言われたわけです。私もなるほどだと思いますけど、私はそういう形で持っていけばちょっと話が困りますので……。

私は先ほど1番議員が言いましたように、武雄の表玄関をよくしよう、そして、大事にしたいというふうな声を聞いたわけです。私は武雄のまちが発展するためにはどうしても、表の玄関も大事でしょうけど、地方、地域が発展してこそ、武雄のまちも発展するんじゃないかと思っております。武雄のまちは高架にしても、都市計画にしても、また、下水道にしても、いろんなものがこれでもかというような形で投資されてきているわけです。それから考えますと、周辺部はどうしてもいま一つ、行政で日の目を見られないのが武雄市内の周辺部じゃないかと思っております。

そんな中で、私は今度の合併というものは、北方、山内、武雄を戦国時代の武将、毛利元就の三本の矢ではありませんけど、三つが一つになってまとまって、武雄というブランドの中から観光資源の開発というものを今回は訴えたいと思います。

そういう考えのもとで、武雄のことを言えば余り話が変わらんわけですので、私の家の前から見えます杉岳のことを例にとって、私は今回の地域発展をぜひ地方からやってもらいたいという考えのもとでやりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

私の目の前に見えるものは杉岳です。杉岳は大聖寺という西暦700年ごろ、今より1,300年前、すなわち、橘の神籠石がつくられるころも1,300年前、武雄温泉が見つけれられたのも1,300年前と言われております。そのように古い歴史のある大聖寺というお寺が杉岳にあるわけです。そこに私もちっちゃいころからよく、目の前でもあり、登ったわけですけど、そこには古いかやぶきの屋根があり、そして、2メートル50もあるような大きなマキの木を通し柱としたようなすばらしいお寺があるわけです。それはすばらしい匠の力だと思います。京都や奈良の神社にも引けをとらないような施設があるわけです。そして、その周りには大きな木、巨木がごろごろありまして、その中には日本一と言われるようなイヌマキもあるわけです。それらの資産というものが今度新しい武雄の中に組み入れられた観光地として、今までは日の目を受けないものが、これをどうにかして観光地として持っていけば、杉岳地区の今旬でありますヒワやミカン、タケノコなどを食材とした料理等々、いろんなものが、夢は広がってくると思います。

私はここだけではなく、いろんなものが今度の三つの中には、周辺部には隠された観光施設があると思うわけです。そんなものを掘り起こして観光地として開発すればもっとおもしろいものができるんじゃないかなというふうな考えを持つわけです。市長は杉岳のことをどういうふうにとらえておられるか、まずそこから尋ねたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

武雄の駅前も大事、杉岳も大事、私は杉岳には、小学生のころから大聖寺には実は行っておりました。その観点から言うと、非常にすばらしいお寺だということは、私が今こうやって大人になって観光面としてそういうふうになっております。

実は私がびっくりしたのは、女性誌に「婦人画報」という雑誌があります。そこに大聖寺の特集がありました。これは皆さん御存じだったでしょうか。そういった意味で、大聖寺だけじゃなかですけど、武雄北方の大聖寺が取り上げられていたという意味で、実は我々が知っている以上に東京とか大阪の方が知っている可能性が非常に高い。私はそのように考えておって、それは一つの潜在能力のあらわれだというふうになっております。

ポスター一つとっても、観光客が100%増になったり、減ったりします。せっかくいい観



光資材なので、PRの方法、あるいはポスターのあり方、あるいはマスコミへの情報提供のあり方は私も率先して考えていきたいというふうに考えております。私は、非常にいい観光面での財産、市民の財産だというふうに高く評価をしております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

共通の認識が初めてできて、ありがとうございました。

それと同時に、ここには黒髪山の大蛇退治のときに鎮西八郎為朝が当寺で祈願して大蛇退治に行ったというふうな話もあるわけです。これをいろんなところでは、西川登の高瀬には人身御供となったお嬢様を祭った神社があるとか、また、いろんな形が民話として残っているわけです。それらを取り上げることもいいし、それとともに私はこの大聖寺、杉岳で一番気に入っているのはアジサイの花だと思っています。このアジサイの花、そして、北方には高野寺のシャクナゲ、また、武雄市内を見ますと梅、桜、ツツジ、また、5月の連休を過ぎますと山々を黄金色に色づけて花咲かせるシヤカシの木、また、秋には山間部を中心にあぜに咲く彼岸花、すばらしい花が武雄にはあるわけです。これをぜひ観光マップとして取り上げ、散策のコースにでもすれば、すばらしい花マップができるんじゃないかなという考えを持つわけです。その点、花と観光という視点から何かあったらお答えをお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

何かあったらどころか、大いにございます。というのも、花は私は最大の実は観光資源の一つだというふうに考えておるわけです。

今、京都でも奈良でも長岡京でも花を中心にした観光地ということで、4月には何とかの花、5月には何とかの花というふうに、既に観光の先進地ではそのようになっております。私はそれを取り入れたいと思えますけれども、いかんせん、私はお寺の住職でもございませんし、どういうふうにしてこれをPRしていくか、その認識をお寺であったり、神社であったり、観光地の皆さんに働きかけていくかということについては、まだ答えを持ち合わせておりません。どうかこの趣旨に御賛同の議員の皆さん方におかれては、そういったことをぜひお知り合いの、あるいは私からは観光協会にそういったことでもっとうまくホームページにできないかとか、そういうルートができないか、旅行代理店等々には私が働きかけていきます。どうか趣旨を御理解の上、私もこの趣旨は大賛成であります。ですので、御理解と御協力のほどをお願いしたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私は、今からの観光というものは、見せかけでつくって、ディズニーランドやハウステンボスもいいと思います。しかし、本当に長続きする観光というものは、日本人の心を底に、そのたまたまいこそ観光だと思うのです。そんな農村の原風景を見て回り、その後、ゆっくり温泉につかり、武雄の旬の食材を使った料理を食する観光、それが今、新武雄の観光の目玉にしてほしいと思います。

ついでであります。私は観光地として言えるかどうかわかりませんが、今度選挙運動で回ってみて感じたことですが、白岩運動公園や体育館周辺、また、この市役所の周辺でも同じだと思います。いろんなところに公共施設や道路、河川等があるわけです。その雑草の生えというものはなかなか見苦しい点があると思うわけです。これをどうにかならないかなと思うわけです。せっかく行ったまちや地域、先ほどのスポーツ振興ということもあるわけですけど、せっかく行ったグラウンドの周りが草ぼうぼうでは、いま一つ、観光武雄が泣くんじゃないかなという感じを持っておるわけです。ぜひこの点をどうにかならないかなというのが私の意見ですけど、よろしくをお願いします。

議長（杉原豊喜君）

9番山口議員、答弁要りますか。

〔9番「はい、答弁要ります」〕

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

何とも回答には困る部分がございますけれども、私はこのように考えております。

草ぼうぼうという話は私も認識は同じであります。私は湯布院の一つのあり方を参考にしたいというふうに思っております。行政だけではなく、あるいは住民だけではなく、あるいは業者だけではなく、みんなが一体となって目につくところをいろんな清掃をしておられます。私もそういう体制ができれば、先頭に立ってそういう清掃であったりとか、ごみ拾いであったりというのはやっていきたいというふうに思っています。したがって、どのようなところをどのようにするかということについては、もう少し議論を深めて、効果的な清掃活動であったりとか、草払いであったりとかというのは考えていきたいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私はランオンズの仲間として、白岩運動公園の体育館周辺を仲間とともに草刈り機を持ち込んで1時間ほど、早朝に草刈りをしたわけです。そのときはきつくありました。しかし、済んだ後のすがすがしい気持ちというものは何とも言えないものがあるわけです。私はこの

ようにいろんな施設や道路、河川などをきれいにしたい気持ちを、ぜひ市民運動として盛り上がるようなことをやるべきだと思うわけです。そして、地域住民や使用する人たちがきれいにしようという里親制度のようなものをつくり、武雄はいろんなところがきれいに整備され気持ちがいいねと言われるような環境整備、これも私は武雄の観光行政の一つだと思います。先ほどは市長の前向きな意見も聞きましたので、ぜひ検討されて、素晴らしい環境整備ができることを期待したいと思います。

次に移ります。ますます進むであろう少子・高齢化社会、その中で今回私の質問は、子育てのしやすいまちづくりにはどうしても大事なことがあると思っております。それは、私はさきの9月議会でも質問しましたように、武雄保育所で行われている一時保育のことで。

9月に困っているということをご質問して、その後、武雄保育所で一時保育が行われるという制度を聞きました。それで大分分かりました。再度、この武雄保育所で行われている一時保育の制度がどんなもので、今後これをどのように武雄市としては進めていこうと考えておられるか、お尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

一時保育事業についての質問でございますが、一時保育事業は保育所に入所していない就学前児童で、保護者の病気、事故等により緊急一時的に保育が必要となる児童を保育所で保育する事業でございます。平成11年4月から武雄保育所で実施をいたしております。利用定員は9名で、17年度には年間延べ1,132人の利用がっております。現状といたしましては、日平均6人から7人で実施をしております、ニーズに対応できているというふうに考えております。今後、少子化対策等検討が必要になるわけでございますが、今後、各地域で実施していければというふうに考えているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、一時保育の内容を聞かせてもらいました。定員は9人で1日当たり6ないし7人、そして、延べ保育者が1,132人、これを六、七人で単純に割りますと、年間に200日ほどが利用されているということです。そのように一時保育というものは今の保育所の中では大変大事な保育の一つだと思います。それをぜひ市内一円にでも広げたいというふうな希望が提案されたわけです。

私は大いに結構だと思います。しかし、これをどこでもということは財源的にも無理があると思います。一時保育をするということは、いつでも来られていいように待機の保育士がその保育所にいなくてはならないということです。それをどこにでもということは大変難

しい問題を含むのではないかと考えています。それを私は在宅身障者や通園保育、親の送り迎えを考えると、今の車社会の中では武雄保育所だけでなく、もう1カ所ぐらい公立でこのような保育所をつくってもいいんじゃないかと考えているわけです。

さきの、私の前の質問の中では、みんな今からは合併し、民営化するというふうな考えがあったわけです。私は民営化も大いに結構だと思いますけど、この子育てというものは大事な問題だと思っていますので、このような一時保育をぜひ公営でやってもらい、少々時間がかかっても、あそこの保育園に連れていけば安心して夕方まで子供を預けられるよというような武雄の子育てのシステムがあってもいいんじゃないかと思うわけです。ぜひこれを検討してもらいたいと思うわけです。今、答えができるかどうかわかりませんが、できたら聞きたいし、できなかつたら今後検討してもらってもよございませう。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

一時保育については、私は子育てするなら武雄という標榜をしている以上は極めて大事な問題だというふうに考えております。

私が思うに、他地域におきましては、もう既に民間の保育所が自分たちが生き残りのためにそんな保育士さんを確保したりとか、そういう場所の確保をしたりとかしていますので、私ができることといえば、そういったものをつくってくださいということを私の方から働きかけていくことはできようかというふうに思っております。子育てが大事だから公立ということには私はちょっと一部くみできませんけれども、その一時保育等の重要性については深く認識しているところであります。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

そんな形で一時保育が、子供を育てる親に本当によかったなというふうな形で形成されることを期待したいと思います。

次に、農業対策についてお尋ねします。

市長は日本の食料政策をどう認識され、どうあるべきと考えておられますか。また、それと同時に武雄の農業をどんな方向に導こうと考えておられるのか、お尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は食料政策については、基本的には地産地消が理想だというふうに思っております。自分たちの目の届く範囲で、地元の農家の皆さんがつくっていただいたものをおいしく食べる。

これが私は食料政策の根幹だというふうに思っております。その延長線で武雄がどうあるべきかということにつきましては、先週の議会でもお答えいたしましたけれども、それを実現するためには守りの農業ばかりでは私は達成できないというふうに思っております。きちんとつくったものが所得にはね返るような攻めの農業、これが私はその比重を高めていかなければいけないと思いますし、それが実現することによって、全国でも数は少ないですけども、高知県の馬路村であったり、あるいは京都の長岡京であったり、そういった成功事例がもう既に出ております。そういったところを参考にして、私は言い方はちょっとストレートかもしれませんがけれども、稼げる農業、雇用の面でも農業に従事したいと、そういった面も私はこれからは持っていくべきだ、それについて私もいろいろ知恵を出して頑張っていくというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、市長より今までにない言葉というものを聞いたわけです。稼げる農業、もうかる農業、それが本当だと思います。今までどうしてもこんなところで質問をしますと、どうして荒れないような農地をつくるのか、農業はどうしたら守っていけるのかということだけが答えとして来たわけです。それでは我々農業者は浮かばれないのです。ぜひ今の市長の言葉ではありませんけど、もうかる農業、稼げる農業をぜひできるように、私はただいまから農業に対する質問を行っていきたいと思います。

今、農業政策として、今回の政府・与党の農業政策は、品目横断的経営安定対策、米政策改革推進対策、農地・水環境保全向上対策を内容とする経営所得安定対策が決定されて、農家所得の増大に向けての対策が大きく反映されているわけです。この品目横断的経営安定対策、すなわち集落営農は、現在武雄市ではどのように市民に理解され、どう取り組むようになっているかをお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

議員申されたように、品目横断的経営安定対策でございますけれども、これにつきましては、現在、武雄市とJAの集落営農組織づくり実践班一体となりまして、農家に入って組織づくりを進めております。この品目横断的経営安定対策でございますけれども、これにつきましては、これまで麦、大豆を作付した場合には農家に一律に助成があっていたわけですが、平成19年度からは担い手、認定農業者、それと一定の条件を備えた集落営農の組織のみに助成をするという制度になっております。

それで現在、旧武雄市管内では46組織、それから山内町管内では2組織、北方町管内では6組織の54組織に対しまして、品目横断的経営安定対策に対します組織化を進めているところでございます。5月末現在で、武雄市管内で中野集落営農を初め8集落でこの営農組織の設立が済んでいるところでございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ということは、武雄市内は集落営農なり認定農業者の枠内に全部かぶってしまうということでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

武雄市といたしましては、認定農業者、または集落営農組織で今後農業の推進を図っていききたいということで現在努力をいたしております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私は単純に武雄市内の全農家がこの集落営農及び認定農業者の枠の中に入ってしまうかどうかということをお尋ねしたわけです。もしこれがかぶらない地域があったり、農家があったりした場合に、今まで武雄の農業はライスセンターを中心にしてラジコンヘリや大型の汎用コンバイン等で集落営農、農区営農がある程度は確立してきたわけです。それが崩れてしまうのを一番心配しているわけです。

それで、質問を変えますけど、米の場合はそうまで農業所得には変わりはないわけですが、麦なり大豆を考えますと大きな差が出るわけです。それで、通告にも出していたように、同じ小麦を10アールあたりつくったとします。そして、反収を400キロと仮定した場合、集落営農に入っているかないかでどう農業所得が違うのかをお聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

認定農業者、また集落営農組織以外の場合には、さっき申しましたように、平成19年度から補助がないということでありまして、その集落営農なり認定農業者以外の方につきましては、助成の額が受けられないということで、その助成金の額が差となります。

具体的に申し上げますと、麦、大豆の具体的収入をさっき議員申されましたように、小麦

で10アール当たり収量400キロで計算をいたしますと、助成金が51千円でございます。大豆では10アール当たりの収量200キロで試算をいたしますと、助成金が81千円となります。そういう単位で助成金が来るか来ないかということで差が生まれるということになります。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、麦なり大豆をつくった場合、販売単価は同じとしても助成金が麦では51千円、大豆では81千円の違いがあるというようなことが出されたわけです。これを1町歩としたら510千円、10町歩としたら5,100千円、大豆ではその810千円、10町歩では8,100千円という大きな数字になるわけです。このようなことを考えますと、ぜひ集落営農なり認定農業者の組織の大事さというものを、農協、生産組織と一緒に手を組んで、その組織づくりに邁進してもらいたいと思います。それが今後の武雄農業を守る一つの方策ではないかと私は考えます。

次に、農地・水環境保全向上対策事業についてお尋ねします。

この農地・水環境保全向上対策事業とはどんなもので、また、どうすれば事業が受けられるのかをお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

農地・水環境保全向上対策事業でございますが、これは基盤となる農地、水、環境の良好な保全と質的向上、農業が本来有する自然環境機能の維持増進のために地域ぐるみで農地や水を守る効果の高い共同活動を支援する事業でございます。

事業対象となるための要件でございますが、一つに、農業者以外の人とか組織を含めた活動組織をつくるということが要件となっております。それから二つ目が、現状の活動にとどまらず、質的向上を図る活動計画を作成するというものが要件でございます。三つ目が、市町村と協定を結んで計画に基づく活動を実施すると、この三つが事業の対象となる要件となっております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、この中で私が一番知りたかったのは、この事業を採択するには集落営農、または認定農業者の組織じゃなからんばいかなのか、そいじゃなしでもよかとかなたということの、この1点をまず聞きたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

認定農業者とか集落営農組織の枠はございません。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私は農地や水利施設を維持管理するには、今までは集落民が労働、いわゆる公役等で管理していたわけです。また、今からもなるだけそうやるべきだと私は思っています。でも、農道や用排水路、生活排水路などの維持管理には、どうしても地元民の公役だけでは済まない点が出てくるわけです。そんなときにこれらの事業を大いに使って、農村地域の生産施設及び環境保全がよりよくできることになるようお願いいたします。

次に、一昨年より川登地区や橋下地区では排水対策が行われているわけです。これを見ますと、私は排水対策というものは大変大事な農業政策だと思っています。これが川登地区及び橋下地区と、限定された地域だけが今行われているわけです。そこをよく見ますと、川登、橋下地区には農業面でしっかりしたリーダーシップをとる人がいて、地区の農業を常に考え、行動力ある人がいてこそその事業推進が行われると思います。それと同時に、土地改良組合がいまだあり、そこで組合長を中心にいろんな農業施設の維持管理が行われているわけです。それらを考えますと、現在、川登地区、橋下地区、武雄東部を残せば皆土地改良区は解散しています。こんな中で本当に排水や、今から起こるであろう農村地域の市道の舗装改良など、大きな多額なる出資を要するような事業設定ができたときに、本当に事業推進のための運動ができるのかという不安を持つわけです。その点、今のままで現状のこういうふうな農村地域の整備改良に伴う運動のあり方をどう思われるか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

議員おっしゃるように、現在川登、武雄東部、橋下、それから、ことし開催の予定と聞いておりますけれども、大崎の4土地改良区が現在ございます。その土地改良区があるところにつきましては、その土地改良区の方で事業を進めておりますけれども、それ以外につきましては、地区や水利組合等で現在そういう維持管理とかをやっております。今後は圃場整備が終わりまして、その維持管理がまた出てくるとは思いますけれども、この分につきましては、各地区の維持管理団体等の実態調査をしながら、その辺に対応していきたいというふうに考えております。



議長（杉原豊喜君）

9 番山口良広議員

9 番（山口良広君）〔登壇〕

私は、このように行政主体で行われるのも結構だと思いますけど、ぜひ私は各地区にある、以前あった土地改良区や農政運動をやるような土地改良組合を全市内に再度構築して、全市で武雄市の農業構造施設を構築する時期が来ているんじゃないかと思いますので、それらも含めてぜひ検討されることを期待します。

次に、私は以前、17年6月の一般質問でも行いましたけど、今、農業機械は大きくなってあります。コンバイン、トラクター、田植え機が一般の道路を通っているわけです。一步間違えば大きな交通事故になるような可能性もあるわけです。また、遅いスピードは道路通行において一般車両には大変支障を来しています。この大型農機具の一般道路走行をどうにか安心、安全な形で走行できるようにしてみたい、それをつくりたい、私の希望です。どう思われるでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私の方からお答えします。

私もそうなればいいなと思っておりますが、地権者の都合等々があります。ですので、こういったところがこうすべきだという御指摘を含めていただければきちんと御答弁申し上げたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9 番山口良広議員

9 番（山口良広君）〔登壇〕

私もぜひ大きな事故が起きないうちにできるようにしてもらいたいと思います。熊本などよその地域に行けば、国道や県道の側道を4メートル以上に整備し、農機具がスムーズに行き、また、そこには農作業の車を安心して停車して農作業ができるような地域もあるわけです。今後このような整備を、私は以前から農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業という、この事業を使ってやってもらいたいということを私なりに勉強していますが、なかなかこれを使ってということまではまだ行き着いておりませんので、今後、行政と一緒に勉強し合っ、この目的税をぜひ農業者のためになるような農道整備に使われるようなことを頑張っ、てやっていきたいと思います。

次に、農産物の販売についてのお尋ねです。

今、市内においては黒髪の里、武雄の物産会館や北方の小さな農園など、いろんなところで直売が行われています。それと同時に、今からは農村においては団塊の世代の退職、また、

新規就農者もふえてくると思います。現に私、花をつくっているわけですけど、その私たちのところにも全然農地も持たない、農業の経験もない若者やカップルがぜひ花なり野菜をつくりたいからどうかしてくれというふうな声も聞くわけです。そんな方が今からは出てくると思うのです。そのときに、私は最初の市長の答弁ではありませんが、もうからんばいかん、稼ぎ得ないば業じゃなか、道楽と思うわけです。そのためには、どうしても販売というものに行き着くわけです。

今、いろんな道の駅や、いろんなところでやっているわけですけど、そこでは旬になれば白菜が山ほど出たり、大根の時期になれば山ほど出るし、また、今キュウリのあるところではキュウリがたくさん出たりというふうになっていくわけです。これをせっかくできた自慢の品物をどうかして売って金になるようなことを見つけ出したい、これも私は農政だと思っています。この点、どういうふうな考えを持っておられるか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私もさきに答弁したとおり、議員と認識は全く同じであります。そこで、私は一個提案があります。私が京都の郊外に行ったときにはと思ったのが、タケノコの時期になります。そしたら、1本10千円で洛西のタケノコが道でどっと売っとんさっです。だから、歩道でそういったふうに売りよんさっわけです。そこに私を含め観光客の人たちが集中して買いに来んさっです。それで、どういうふうなPR行動をとったかということ、「るるぶ」であったりとか、いろんなホームページにも載せとんさっです。それが京都の洛西での年中行事になっているわけです。私はこういったやり方も参考にして、先ほど議員がおっしゃったような稼げる農業への後押しにしていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひいろんな形での販売というものは大事だと思います。その中で、この前、春には武雄のイチゴの仲間やキュウリの仲間、花の仲間が東京や大阪の方へ販売促進に行ったわけです。その中で、イチゴの仲間は市長が以前勤めていた高槻市の周辺の駅前で、デパートでも販売促進をやってきたわけです。ぜひ私はそこととは言いませんけど、アンテナショップなり、eショップなり、ぜひ姉妹的なつながりを持って、我々武雄の農産物があそこでも売られるよというふうな計画をつくってもらい、それが農業者の賛同を得て大いに発展するように持っていったらえればなという気持ちを持っております。

それと、今パソコンの話が出たわけですけど、今、我々農業者は認定農業者の会というものをつくり、胸を張って農業者ということを訴え、叫びたくてうずうずしています。ぜひ認

定農業者の会のホームページをどこかにでもつくってもらい、農業のよさをアピールしてもらえればなと思っております。

以上、それらを含めて、販売なりのロマンを聞かせてもらいたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

ちょっとロマンよりも現実的な答弁をさせていただきたいというふうに思っております。

まず1点目であります。高槻市でイチゴが売られた。これは私も関与してありましたけれども、非常に好評だったというふうに聞いております。こういった取り組みは私もできる範囲で、またさらにやっていきたいと思っております。

そこで一つお願いがありますのは、JAさんとか、いろんな団体で補助金等があります。このときにぜひ、やっぱりですね、東京の例えば高島屋であったり、伊勢丹であったり、売れたという実績をぜひつくってほしいというふうに思っております。そのために売れるための品質に向けて農業経営者の方々は頑張ってください。

なぜこんなことを申し上げるかということ、伊勢丹で売り切れたと、あるいは高島屋で売り切れたということが広がれば、それでブランドになります。私はそういった取り組みを車の両輪の一端としてもお願いをしたいというふうに思っております。

それと何でしたっけ。

〔9番「認定農業者のホームページ」〕

認定農業者のホームページは、私も実は余りデジタルは得意ではありませんけれども、ブログをやっております。市が指導するまでもなく、お手伝いするまでもなく、ホームページは私は今の時代ではつくれるものだというふうに思っておりますので、もし魅力的なホームページをつくっていただければ、我々はそこにリンクを張って、あるいは部屋をつくって、そういった意味での後押しはしていきたいというふうに思っております。

確かに市のホームページに取り上げると、アクセス数が10倍から100倍になります。この効果は非常に認識をしておりますので、ぜひまずつくっていただいて、その上で協働をしていけるようにしていただければいいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

これもちまして私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

議長（杉原豊喜君）

それでは、以上で9番山口良広議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、2時30分まで暫時休憩をいたします。

休	憩	14時14分
再	開	14時30分

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

23番江原議員の質問を許可します。御登壇を求めます。23番江原議員

23番（江原一雄君）〔登壇〕

議場の皆さん、議場の外で有線テレビをごらんの皆さん、初めまして、江原一雄でございます。よろしくお願ひします。

御承知のように、1市2町の合併による新しい自治体が誕生いたしました。4月には新しい市の体制も決まりました。私はこれまで旧山内町で議員として、町政の主人公は住民である、この立場から首長の進める行政事務について、町民の利益になることには賛成しながら、おかしいことには反対し、是は是、非は非を貫き発言してまいりました。これからは新しい武雄市長の進める行政についても、同じように市政の主人公は住民であるとの立場を堅持しながら、市民が合併してよかったと言える暮らしやすい武雄市を築くため、全力で取り組む決意をまず最初に表明するものであります。

質問の第1点目です。固定資産税の税率引き下げについて質問をいたします。

御承知のように、1市2町の合併で生まれた新しい自治体、武雄市です。私はさきの選挙の中で、合併するキーワード、サービスは高く負担は低くが貫かれているかどうかではないでしょうか。

町民、市民の思いは合併後、合併してよかったと言えるかどうか、これから問われていくのではないのでしょうか。その第1に取り上げているのが、その最たるものとして、固定資産税問題はそのキーワードに照らせばどうでしょうか。合併しただけで税率が引き上げられていく。町民にとってはたまったものではありません。これは合併する旧山内町、北方町民の思いは全く同じではないのでしょうか。私はこの思いの結果は、さきの市長選挙、市議会議員選挙におけるその結果は示されているのではないかと考えております。

さて、1市2町の合併協議会、一昨年立ち上げられて、あれよあれよの間にこの10回の合併協議会が進められました。この固定資産税問題を取り扱ったとき、平成17年1月25日、第3回合併協議会で協議項目第19号に関して、何と質疑、御意見の議事録を見ても、（「なし」と呼ぶ者あり）「それでは、ないようでございますので、確認をさせていただきます」で終わっているわけです。まさに町民にとってこの経過を見ると、まさに合併協議会が値上げを町民に押しつけたと言わざるを得ません。

そこで、山内町民、北方町民の皆さんだけでなく、武雄市民の中でも武内町、若木町の皆さんも私の訴えに、武雄市の固定資産税の税率が佐賀県で一番高いんですかとびっくり、こ

ういう状況に出くわしました。ある方は、若木で訴えていたとき、街頭で聞いていた方たちが、自分は橘町に住んでいるけど、初めてあなたの話を聞いてよかことば聞いた、ありがとうございますと、こういう言葉を言われました。それは何よりも今まで自分たちが払っている固定資産の税率が県下で一番高いということがわかった、こういう思いであります。

武雄市民の皆さん、私はこのボードを示しましたが、昨年の旧山内町議会の12月議会の中でも、本当に県内7市の実態を、あるいは県内10市の合併自治体が生まれました。そういうもとで比べてみてよくわかった、これが正直なところであります。

固定資産税の項目を見ますと、佐賀市、唐津市、鳥栖市、伊万里市も1.4%であります。多久市と鹿島市が1.5%であります。武雄市は1.55%で、県下で一番高い税率です。おまけに今回県内各地の合併協議会の様子が出てきました。一番最初に合併しました小城市も4町合併でしたが、税率はそのまま1.4%です。お隣の嬉野市も1.4%であります。以前、1市2町の枠の前、1市3町の時、仕方なしに1.55%の武雄の税率に合わせて当時の合併協議会は進んでいましたけれども、新嬉野市の発足に伴って税率を1.5%にしようという議論があったそうではありますが、合併協議会を前にして議会全員協議会等の中で、あるいは特別委員会等の中でも1.4%で行こうという報告で決まっています。神崎市もそのとおりであります。おまけに今度お隣になりますが、武雄市のお隣、有田町、合併して有田町になりましたが、有田町には以前は都市計画税が0.1%掛けられておりました。でも、協議会の中で都市計画税を廃止するという方向で確認をして、有田町も1.4%という税率です。

私はこの間、県内各地の合併協議会の流れの中で1.4%が本当に定着している。そういうときに、私はこの山内町の町民にとって、あるいは北方町の町民にとっても、この税率が上がるというのは本当におかしい話であります。その理由は、所得税は収入があって払うものであります。しかし、この固定資産税は収入がなくても払う憲法上の国民の義務であります。皆さん御承知のとおりであります。ですから、私は本当にこの問題については、このたびの4月の市長選挙、あるいは市議会議員選挙、本当に大きな争点になったのではないかと思う次第です。

それは市長の具約、この具約を見ましても、3月11日の時点で、市長は第3項目に、佐賀県一になる予定の水道料金、固定資産税の税率、介護保険料等の引き下げに向けて専門審議会を設け検討を開始します。これは3月11日以降、市民の皆さんからの御意見をいただいて、追加としての具約であります。そして、市長は、これからの市政の源になります選挙公報を見ましても、このように政策提言の2項目めに、水道料金、固定資産税等の引き下げを具体的に検討開始します。こういう明確に選挙公約を掲げられております。このことを見ただけでも、今度の選挙結果、私が耳にする中でも、新市長に期待した人の思いは即刻平成19年度より固定資産税の税率は1.4%に引き戻すことを求められている、その思いが新市長に託されているのではないのでしょうか。

そこで、市長に3点、まず質問させていただきます。

一つは、この固定資産税をめぐる旧1市2町の合併協議の経過は知っておられるのか、お聞きしたいと思います。

二つ目に、この件に関して旧山内町民、北方町民の思いをどう受けとめて選挙戦を戦われたのか。

三つ目に、市民に選挙公約されている具約、3月11日に追加挿入されているその経過についてお聞きしたいと思います。

この3点、まさに固定資産税は税率引き下げしかない、その道しかないということを求めて、第1回の質問にさせていただきます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私に3点の御質問がありました。順を追ってお答えをしたいと思います。

旧1市2町の合併協議会での議論についてお尋ねがございました。知っているかという御質問につきましては、知っております。

2点目の旧山内、旧北方の御意見をどのように受けとめているか。意見にはさまざまな御意見がありました。旧山内、旧北方の皆さんがすべて押しなべて下げろということは私は聞いておりませんし、さまざまな意見があった中で私はいろんな意見を受けとめております。

さらに具約の話がありましたけれども、これにつきましては、私は追加ではなく、もともと私の持論といたしまして、さきに答弁もいたしましたけれども、佐賀県で一番になる。それが私は政治家としてちょっと不正常な状態ではないかと思ひまして、私は公約に上げ、選挙公報にも載せさせていただいたところであります。

なお、私先ほどボードを見ておりまして、都市計画税の話がありましたけれども、これもセットにして私は考えていくべき問題であるというふうに認識をしております。

議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

23番（江原一雄君）〔登壇〕

この間の合併協議会、旧1市2町の合併協議会の流れを知っていると。それはもちろん当然だろうと考えております。この1市2町の合併協議が、協議委員の皆さんのほかは、町民にとってはほとんど知らない状況です。これは御承知のように町民の世帯、家庭に届くときは、こういうことが確認されましたということで各家庭に届いたとき、もうそれは税率が一番高い1.55%に2段階で合わせていきますよという決定を町民に示されたただけですから、私はこれは本当に重く、執行側、あるいはここにおられる議員諸公の皆さんも、本当にこの問題については投げかけられた課題だと考えております。

私はこの問題を昨年、山内町議会で指摘したときに、先ほど言われましたが、旧首長のお二人、山内町、あるいは北方町の首長の思いは、私が昨年提案したときに県下で一番高いこの税率1.55%を1.4%に戻してやるべきだ。そして、今市長も言われました固定資産税の問題につきましても考慮しながら進めるべきだと。そういう中で、当時の山内前町長はこういう表明もされました。昨年12月15日の第10回合併協議会の中で、この協議会の議事録としてちゃんと残っているわけでありまして。それをあわせて示したいと思います。

「その他の項でお願いしておきたいと思うんですけども、それは固定資産税の件でございます。新市移行後、新執行部、あるいは議会の中で十分御検討いただきたいというのが、実は当町の今回の一般質問の中でありました。基本的にはやはり固定資産税は基準税率として、都市計画税として別立てをお願いしたいというふうな意見がございました。これについては、私もそういうことが本筋じゃないかというふうにも思います。この辺の御議論、あるいは見直しということをお願いしたいということで、ここで発表させていただきたいと思えます」。

これが当時、元山内町長の最後の合併協議会での報告であります。そして、隣におられました旧北方町の元町長も、この意見に対して賛同の表明をされました。「今、山内町の町長さんから話があったんですが、固定資産関係というのは、これは固有の市、町にとっては一番大事な財源なんですね。それで、我々も同じに1.4%でしてきたわけでございますから、その点を加味していただいて、新市になって十分固定資産関係は考えていただきたいと思えます。山内町と一緒に1.4%でやってきておりますので、御理解を願いたいと思えます」。

こういう最後の合併協議会の中で、両町の住民の思いを代弁していただいて、取り上げていただいて、新しい武雄の市政、市議会の中で御議論していただきたい、こういう申し送りではないでしょうか。

私は、市長が申されました、合併協議会の経過を知っていると御答弁いただきました。この旧両町の、元町長のこういう御意見に対して、新市長としてどのように受けとめていただけるのか、お尋ねをしておきたいと思えます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

まず、数字の話から先に行きたいというふうに思っております。1.55%を1.4%に下げた場合に、計算の仕方もあろうかと思えますけれども、260,000千円の減収になる。これは185億円が市の財政、一般会計からして、年間260,000千円の減収になる。今、金曜日からいろんな御質問が、財政需要を満たす御質問が多々出ております。果たして260,000千円の減少

があったときに、議会、あるいは市民の皆さんたちの要求にこたえることができるんでしょうか。私は疑問に思っております。

しかし、1.55%というのはやっぱりちょっとたっかなというのが市民、あるいは私、一市民としても率直な感想でありますので、それを踏まえて公約に上げたところであります。ちょっと1.4%は低い。そういった意味で、私は前町長、お二方が述べられた哲学については賛成であります。下げるということには賛成です。しかし、現実問題として、1.4%に下げた場合にどのような別の問題、副作用が生じるか、私はここで説明をしたい、または説明をしていきたいというふうに思っております。

基本的な哲学は以上でありますけれども、具約で申し上げましたとおり、引き下げの幅、いつから等々については、専門審議会を開き、その中で詳細については決めていただきたいと考えております。

議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

23番（江原一雄君）〔登壇〕

私は、財政論の前に本当に市政を引っ張るリーダーとして、先ほど県下の10市の固定資産税に関する表を示しました。財政の問題は当然関係しますから当然でしょう。それはでも、この数字というのは、その市の政治姿勢の姿だと思えます、私の認識は。というのは、全国ですね、県内でもそうでしょうが、武雄市に住んでぬくもりのある元気な武雄市をつくるためにも、どうして県下で一番高い固定資産税の税率を聞いたら、だれでも嫌がりますよ。それは市長もよく御理解いただけるんじゃないでしょうか。それは私ども山内町民にとっては、あるいは北方町民にとって、合併しただけで1.55%に引き上げられていく。年間10千円以上引き上げられていく。それは世帯当たりですが、それは本当に矛盾ですよ。ですから、私は佐賀市や唐津市、鳥栖市、伊万里市、県内でも大きい市です。そこの固定資産税が1.4%だと。これは武雄市民にとっては、本当にそれでやっておられるのかと。（発言する者あり）もちろんあわせて都市計画税、いろいろやじっておられますが、佐賀市と鳥栖市は設定をされておられます。しかし、唐津市と伊万里市はこの都市計画税は導入されていません。この現実を見てでも、どこの自治体でも財政の問題を含めまして、全国約1,800近くのこの自治体の中で、同じような共通の思いはどこの自治体でも一緒だと思います。その中でいろんな問題が今、市長も先ほどからいろんな方の質問にも答えられております。

ですから、私は市長として掲げられている選挙公約、文字どおりこれを読めば、読んだ人は私、けさでもそうですが、この引き下げはすぐにでも市長の第1の仕事で取り組まれるんだと、市長を熱心に応援した人が、その思いですよ。だから、この問題は市長の政治姿勢を占う上で重要な問題です。私は即断力で本当に1.4%の固定資産税、県内の動向を見ましても1.4%が圧倒的です。これを1.4%に戻すということを私は答弁願いたいと考えて、まさに



第1回の6月定例議会しょっぱなの質問をさせていただいております。市長として、この固定資産税、先ほど言われました、審議会を設けて検討していくと。でも、私はそれは具体的に市長としてやはり表明していただかなければ、市長に期待した人たちの思いとかけ離れていくのではないかと考えております。いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。

私は既に前進か停滞かということで、このような具約をホームページ等にアップしておりますし、その中で私が初めから申し上げておりますのは、佐賀県一になる予定の水道料金、固定資産税の税率、介護保険料等の引き下げに向け、専門審議会を設け検討を開始します。これが平成20年というふうに、私はここに明記をしております。したがって、私はここで即断をするということの立場には、くみするものはできません。私は拙速はいけないというふうに思っております。きちんと財政の将来設計、この市のあり方等々を含めて、さらには右手にどのような財政需要があるかといったことも含めてこの税率は議論を重ねて、私は民主主義的に決するべきだというふうに思っております。市長がここで1.4%にするということをやったら、これは独裁、独断以外の何物でもないと考えております。

議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

23番（江原一雄君）〔登壇〕

私は、市長言われますが、具約は市長が選挙のために樋渡後援会として提起され、市長独自の政治活動として取り組まれた政策活動です。それはもちろん、ここに示されておりますように、具約はそういう形で市長の政治活動の提言です。

私は先ほど言いましたように、市長の選挙公約、これは4月9日、告示と同時に提出をした選挙公報です。公的に市民がこれを見て選択したんですよ。この文章を見ますと、具約とはちょっと違うんですよ。「水道料金、固定資産税等の引き下げを具体的に検討開始します」です。ですから、具約では専門審議会を設け 　これはないんですよ。ですから、私が言いたいのは、この選挙公報を見た市民は紛れもなく引き下げを具体的に検討開始しますですよ。ですから、具体的に引き下げを検討するということは、その中身についてこの場で聞きたいわけですよ。わかりましょう。それを求めているんです。具約で言われている専門審議会を設けてではなくて、具体的に検討を開始します、その具体的な中身を求めているんですよ。それが選挙公約として4月9日に、これは明々白白、公的な資料ですよ。それは御存じのとおりです。ですから、この固定資産税に関して明確な答弁を求めたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

明確に答弁をいたしたいと思います。

まず、武雄市の公報に載った。これは私の手元にありますけれども、これにつきましては、公職選挙法上、4年間で達成すべきものとして書くべきもの。私はまず法的に考えて、そういったものだ、樋渡市政1期目で実現すべきものというふうにとらえて、この4年間で何ができるかを真摯に考えて、ここに私のみずからの筆で書きおろしたものであります。その上で字数制限があります。私も3倍ぐらい書いとったぎんた、削られたわけですね、3分の1ぐらい。そういった意味で、ここにはエッセンスを載せております。そういった上で御理解を賜った上で申し上げたいのは、あくまでも先ほど議員おっしゃったように、水道料金の引き下げを具体的に検討開始しますということを入れて、その補足説明として、私の具約で専門審議会を設け検討を開始します。ここで首長なり議会が何%がいいかというのは即断できるでしょうか。私は逆にそれを質問したいというふうに思っております。いろんな意見、いろんな各界各層の意見、あるいは市政の長期的な運営に立って税率を民主的に決める、これが新しい武雄市政のあり方だというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

23番（江原一雄君）〔登壇〕

私が具体的に市長からこの固定資産税の税率について、税率の引き下げを求めていることは、やじが飛びますけれども、何らおかしな質問でも何でもありません。それは簡単なことです。県内の10市の実態を踏まえて、私はこの県内の固定資産税の10市の実態は、残念ながら1市3町、あるいは1市2町の合併協議会の中で、協議委員の皆さんが当時どれくらいこの実態を知っておられたでしょうか。ある方はこれを知らなかったと言われました。重要なポストの方がですよ。（発言する者あり）私は、これは……（発言する者あり）

議長（杉原豊喜君）

私語を慎んでください。

23番（江原一雄君）（続）

静かにしとってくださいよ、本当に。これは合併協議を進めた中で、市長を応援した重要な方が市長の事務所開きの名前を記載されております。先ほど言いました。旧首長の思いをここで取り上げさせていただきました。本当に私最初に申しましたように、1市2町の合併のキーワードでありますサービスは高く負担は低くというこの合併のキーワード、これが合併を推進した人たちの市民や町民の皆さんへの最大のPRでしたよ。それは市長も御存じのとおりだと思います。

ですから、私はこの固定資産税の問題はこれから武雄市が本当にどういう立場で市政のか

じ取りをやるかどうか、問われているから指摘をし、市民の皆さんにこの固定資産税に関して本当に自分たちが納める税金を自分たちの自覚を持って決めていくという、これはまさしく住民が主人公の原則を議論するそのスタートに考えて提起をしているところであります。

私はインターネットのホームページを見てみますと、市長もいろんな本をお読みであります。私は、この固定資産税というのは、先ほど言いましたように、所得税は所得があるから払います。でも、固定資産税は所得がなくても払う国民の義務、おわかりのとおりです。大昔、150年前にさかのぼりますと、例えば、この武雄藩、あるいは北方の昔の多久藩、そういう時代の藩の、いわゆる年貢の納めの違いと全く一緒です、理屈的には。いわゆる税金というのは、市民の皆さんからいただいて、市政のかじ取りをする上で自主財源として運営する。そして、その税金を市民の皆さんの福祉向上のために分配する、その機能の役割を市政が担っているわけです。そういう意味で、県内の10市の様子を見ただけでも、武雄市が本当に県下で一番高い1.55%の固定資産税の税率、これは見直すべきだと。この訴えは、市長もそういう意味では文字どおり具約に示され、また、選挙公約に示されました。だから、この場でもう一步突き進んで私が答弁を求めているのは、ここまで来たこの経過を、本当にこれから求められているのは、もう平成18年の4月1日から1.48%に引き上げられているわけです。この問題を私は指摘しているわけですから、平成17年度と同じように1.4%でやるべきだと言っているわけです。

市長は先延ばしをされようとしておりますが、町民は1.4%に引き下げしてほしいということをお求めているわけでありまして、そのことに関して市長の英断と、まさに即決の思いを具体的に求めたいと先ほども言っているわけでありまして、それは検討をする意味でも、さきの金曜日の質問の中で出ました。頭の痛い問題だと言われました。私は金曜日、この答弁を聞きまして、やはりきょうの答弁の予感をいたしました。引き下げはどれくらいかという質問に対して、持ち合わせていないと答弁されました。もう一度、私の聞き間違いでしたら失礼いたしますが、本当にこの固定資産税の引き下げについて、市長が言う専門審議会をつくると言われるならば、その専門審議会にどのような諮問を具体的に求められるのか、表明していただきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私はさきの答弁で持ち合わせていないということを申し上げたときに、一方で発生する行政需要についても申し述べたつもりであります。正確には今つまびらかには申し上げることはできませんけれども、税というのは、税だけで決められる問題ではないというふうに思っております。すなわち、これからどれだけの財政需要が発生してどれだけの行政サービスが

あるか、これが右手にあって、左手の税が重なるようにして決めるものが税だというふうに私は基本哲学として持っております。したがって、この観点から、専門審議会には引き下げの方向で検討すると同時に、どれだけの幅かというのは、どういうサービスがこれから武雄にとっていいのか、どういうことをすれば武雄が持続的に都市として経営ができるか、そういったこともあわせて私は諮問を促し、答申を真摯に求めたいと思います。議論につきましては、民主的な議論をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

23番（江原一雄君）〔登壇〕

思いは一緒ですけれども、やはり首長として求められているのは、この間、新市長として初の6月定例議会の中で私は答弁を聞いていまして、なるほどこれまで国の行政に携わられた経歴をお持ちの新市長であります。選挙後、新しい市長としてこの場で「政治家として」云々という言葉が私の聞き漏らしがなければ7回言われました。執行部の中で業務をする方は、それはやはり決まったことをいかに市民に徹底するために事務を能率よく、効率よく進めていくかというのが公務員としての、全体の奉仕者としての職責として仕事をされるわけですね。

市長はこの6月の定例議会、私で一般質問10番目ですが、約7回、それ以上言われたかもしれません。7回は言われました。「政治家として」という言葉を申されました。私が求めているのは、本当にこの固定資産税のまさに変更は、政治家として明確な答弁を求めたいから、それに市長として、本当に政治家としてのその産声を、お互いさまではありますが、スタートを切られている。これは政治家としての決断しかないんですよ。政治家だからこれができる課題ではないでしょうか、行政課題ではないでしょうか。

ですから、具約に示され、また、選挙公報に具体的に検討を開始すると言われている以上、政治家としてこの固定資産税の今後の方針を具体的に示して諮問するべきではないでしょうか。その具体的な数字についてお示しを願いたい、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私は政治家として申し上げているということに関して言うと、その姿勢について私はこれは行政ではできない、そのものについては政治家として一歩踏み出して答える、そういったときに「政治家として」という言葉を使っております。今般、固定資産税の引き下げに向けていろんな御異論、御批判も実はあります。庁内にもあります。それをもって私は固定資産税の引き下げ、これをもって私は自分の政治姿勢を示しているものだというふうに認識をし

ております。その上で、私は税の決め方というのは再三御答弁しておるとおり、これは一定の議論がないと私は決められないものだというふうに思っております。一定の納得、一定の御理解、それと一定の後押しがあって私は今般の固定資産税を決めたいというふうに思っておりますし、そのために私は聞く耳、すなわち専門審議会を設けて、そこでの議論を真摯に承りたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

23番（江原一雄君）〔登壇〕

私は市長の答弁を聞いていますと、それでもいいのかなと思いますよ。でも、専門審議会ですそこに参加される方がどういう思いで参加され、何を議論のテーマにするのか、そのテーマは何でしょうか。当然、今の市長の答弁は、この固定資産税の引き下げについては検討をお願いしますということであろうかとは思いますが、その中身の詳細、具体的とあわせて、その思いをもうちょっと聞かせていただけませんか。正しくわからないんですよ。いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

やっぱり長うなっぎんたあいですね。どこで答弁したか、あるいは質問したかということはありませんけれども、私はさきの答弁で、専門審議会においてどれだけの税を引き下げて、また、どこの時点でスタートするか、それを引き下げの方向で専門審議会でも検討をお願いしたいというふうに答弁をしておりますし、今、議員と議論を重ねていまして、その思いに変わりはありません。

議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

23番（江原一雄君）〔登壇〕

では市長、今申されましたように、審議会を設けて検討を開始すると言われました。引き下げの方向を求めて諮問していただくよう求めておきたいと思っております。よろしく申し上げます。

2点目の山内、北方支所の庁舎の活用について質問いたします。

町民に開かれたものに、図書館、児童館、文化ホールなどに活用を求めます。こういう形で市長に答弁を求めたいと思っております。

旧山内町の庁舎は平成4年の11月に落成をいたしまして、すべての総事業費、当時のお金で16億円という庁舎が、旧役場の本当にトイレもお寒いような状況のもとで、今度はびっくりするような新しい庁舎が14年前に完成をいたしまして、本当に立派な建物で市長もびっくり

りされたんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

私はこの庁舎が本当に今後町民の皆さんの、あるいは市民のコミュニティーとしての活用を必要としているのではないかと、地域振興策として町民に開放していただければと思う次第です。まして、行政事務とあわせて文化教養の拠点として山内町の中心地にありますこの旧山内町役場、現在の山内支所の活用は、3階の部屋を見ても、本当に有効に活用して、町民の皆さんのニーズにこたえられる要素をいっぱい持っているかと思います。

県内の中で、伊万里市におきまして図書館の分館機能を御存じかと思いますが、伊万里市における図書館の各支所の分館機能としての役割は、本当に伊万里市民の図書館ネットの重要な構成部分を占められております。現在、武雄市立図書館のこの分館機能としての役割をそうした側面も担える重要なポストとして図書館の運用に役立ててはいかがかとお尋ねをする次第であります。

もう一つは、3階の旧議場跡の部屋につきましては、せんだって地域活性化特別委員会の行政視察を行いまして、初めて見られる方は本当にホールとしての機能を備えた立派な部屋ですねという声も聞く次第であります。私はこの3階の旧議場を、本当に町民の文化教養の拠点として、文化ホールとしての役割を担えるものではないかと考えております。

また、旧北方町役場の、現在北方支所の状況におきましても、住民の皆さんの思いであります子育て支援策として、児童館の活用を大変ニーズが大きいものではないかと考えております。

市長の具約32がありました。交通至便のところを念頭に、子育て総合支援センター（児童館）を設置し、子育ての総合的支援を図ります。こういう具約を示されております。この点から見てみますと、本当に山内も含めて北方の支所もそうした児童館、子育て総合支援センターの機能を本当に持ち合わせていく地域振興策として、それを加味しているかと思います。市長としてこの支所の活用をどのように今後考えておられるか、御答弁をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

両支所の活用については、まず大前提として空きスペースが多々あります。これについては、私は具約でもさまざまな集会でも申し上げたところでもありますけれども、市民の皆さんに極力オープンにしていきたい、あるいは団体の事務所等に使えるようにしていきたい、これが私の基本的な方針であります。その上で今どういうことが行われているかと申し上げますと、具体的な活用方針については行政改革幹事会で検討を行っております。第1次的な方向性の検討については、この秋、早ければ9月を目途にその骨子案を出して行って、それを踏まえて議会、あるいは各種団体、地域審議会などの意見を聞いて、活用策を民主的に最終

的に決定をしていきたいというふうに思っております。

なお、御質問でありました子育て総合支援センターについても、これからいろんな行政需要があります。極力箱物をつくらずして、そういった支所をうまく活用して、住民の皆さんに喜んでいただけるようなものにしていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

23番（江原一雄君）〔登壇〕

私はこの点につきまして、御承知のように、旧山内町政のもとで箱物をつくるかつくらないか、いろいろ議論をした経緯もあります。この経緯について議事録等を読んでいただければ非常にその思いも伝わるのではないかと私は考えておりますし、今市長が答弁されましたように、新市の一体的な地域振興策を図る上で、本当に全市民の英知でこの活用策を練っていただいて、市民のくみするところをお酌みいただきたいと考えております。

3点目の乗り合いタクシーの路線延長について質問いたします。

この乗り合いタクシーというのは、全国の中でもタクシーを活用して、不採算の路線バスの代替確保として、住民の足の確保として運用をする。珍しい一つの例として、山内町政のもとで取り組んでまいりました。この乗り合いタクシーは、御承知のように三間坂駅を中心にしまして、山手の神六山に行きます船の原地区への路線と、また、三間坂駅から山内町今山地区まで、この往復の乗り合いタクシーを現在活用させていただいております。

あわせて新市になりまして、旧武雄市の不採算路線のもとで循環バスが運用され、さまざまなコースを回っているようであります。見てみますと、旧武雄市の循環バスがちょうど武内町の梅の原から海正原を通りまして、鯉淵を通過して森の木に抜けて長谷入り口、そして、赤穂山を通過して川良の方に抜けているこの循環バスがあります。残念ながら、この山内町と旧武雄市の循環バスの路線の間に1,900メートルの、いわゆる空き路線といいますが、通らない路線、これが西梅野地区にあります。1,900メートルです。ここに住んでいる高齢者の皆さんや、また、車を持たない方の世帯にとっては、たまたま合併したということで、この目の前にあります山内町の乗り合いタクシーの駐車場から約700メートル、あるいは800メートル、先ほど言いました1,900メートルの間に、そうした不採算路線のバスにくみされなかった地域として住民の思いは、この乗り合いタクシーが何とか私たちの住んでいるまちまで、地域まで延びていただけないだろうか、そういう思いを耳にしたところであります。

山内町で8年目を迎えていますこの乗り合いタクシー、土曜、日曜、祝日を除き、1路線1日3往復であります。この路線の運用活用について、私のこの路線延長についての当局、市長の思いはいかがか、御答弁をいただければお願いを申し上げます。

議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

前田企画部長〔登壇〕

答弁をしたいと思います。

まず、乗り合いタクシーのお尋ねの三間坂駅から臼ノ川内までの間についての現状を若干申し上げたいと思いますが、1日3往復で日曜、祝日は運休ですが、民間のバス会社の方に運行を委託しておるところでございます。タクシー会社ですね、運行を依頼しております。平成17年度の実績を見ますと、年間の利用者が718名になっております。1日当たりに換算しますと、1日2.4人ということで、1便当たり直しますと0.4人という乗車状況になっております。これを運営するために市の方から年間1,300千円程度の補助を行っております。1人1回に換算しますと1,816円の補助ということになっております。これは民間の通常のタクシーの料金の約2倍ということで、極めて非効率な運行になっているという状況でございます。

お尋ねの路線の延長の件でございますが、先ほどありました市内の循環バス、そこら辺についてもさまざまな要望がっております。そういうことで、先ほど言いましたように、利用の実態をまず把握して、運行時間、それから費用等考慮しながら、市内全体の運行、それについて検討をやっていきたいということで、運行の形態、あるいは有効かつ効率的な観点で抜本的な見直しをやってみたいということで考えております。いずれにしても、関係者の利用を特にお願いしたいということで考えております。

議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

23番（江原一雄君）〔登壇〕

この不採算バスの路線につきましては、自治体として住民の足を確保するという意味で本当に重要な施策だと考えております。こうした今日の世情のもと、本当に病気の時病院に行く、いろんな問題が波及しております。ですから、平成元年に三間坂 - 船の原、三間坂 - 臼ノ川内の地方バス路線の廃止をバス会社が打ち出したときには、地方バス路線維持費として補助をしていました。しかし、残念ながらそれも厳しくて、平成10年にはバス会社も廃止をして、その代替の、バス路線にかわる乗り合いタクシーとして運行をしている経過がございます。

今回、3月1日に新しく1市2町が合併して、今部長の答弁にありますように、合併して本当にそうしたエアポケットの路線が生み出ている問題を解消するために総合的に判断をしていただいて、一日も早く具体的な形でお示しを願いたいと思いますが、そのめど、期日についていかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

前田企画部長〔登壇〕



このバスの運行につきましてはいろんな条件がございます、まずは道路運送業の許可を得る必要がございますので、時期についてはここで明確にはできませんが、一日も早くその方向性を出していきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

23番（江原一雄君）〔登壇〕

市長にも御答弁をお願いしたいと思いますが、この不採算路線のバスにつきましてどういう認識をお持ちか、そして、今部長が答弁しましたように、全体の路線の検討も踏まえて、期日は一日も早くということではありますが、全体のそうした流れも踏まえて、市長としてどのようにこの事業についてお考えか、あわせて御答弁をいただければお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も質問を受けて種々考えました。それは一つは、これだけの1回当たり1,816円、1,300千円の補てん、これが今の武雄市全体として本当に適切な水準であるかどうか、これは一たん議論が必要だというふうに認識をしております。その中で、私はこれはちょっと高過ぎるというふうに思っております。その上で不採算路線をすぐさまじゃあ、撤退するかといったことについては、私は考えておりません。

私は行政コスト、あるいは行政運営として持続可能な乗り合いタクシーの持続に向けて検討していきたいと思っておりますけれども、今のままということはとても考えられないし、また、企画部長がさきに答弁したように、こういった制度があるんだということを広く該当の住民の方にお伝え願いたいというふうに思います。乗り合いタクシーの利用者は1回当たり150円であります。これをもっと取ることができれば、我々の方に収入として入ることができればその延長についても考えられるとは思っております。あわせて、佐世保だったと思います。ちょっと都市については間違いがあるかもしれませんが、あそこは不採算路線の場合は一定の乗客を下回った場合には廃止するというノルマ制を課しております。私はこういったことについても一定必要なんじゃないかなというふうに率直に思っておりますし、そのように答弁をさせていただきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

23番（江原一雄君）〔登壇〕

この不採算路線バスにつきましては、結局、民間の会社はもうからなければ公共交通機関から撤退をする。もうかるときは運営をする。もうからなくなったら撤退していく。今の社会の制度の、本当に一断面です。そういうときに、全国でこの公共交通の機関としての役割

を担っているのが自治体の大きな仕事になっております。そういう意味では、市長言われるように、うまくいかないところは市も撤退するような言動もされましたけれども、私は本当に市長の政治姿勢の一端をお聞きするところでありましてけれども、もちろん投資しなければほかのところにも回そう、そういう気持ちかと思っておりますけれども、本当に生活する上で、高齢者の皆さんがまさに陸の孤島、そういう状況はやはり行政の手で支えていく。もちろんそれには住民の合意がなければならぬと考えております。その住民の合意を図るために市長自身も大いにPRをしていただきたい、こういう説明でもありますし、私は効率的に本当に運営をできるように、部長が答弁されましたように、全体の合意を受けるように再編をしながら、この路線の活用を、拡充も含めて推進していただきたいと求めておきたいと思っております。

4点目の国道35号線踊瀬西谷峠のカーブ改良工事の推進についてであります。

国道35号線は、武雄から嬉野に行きます34号線と分岐して佐世保に行きます。堂島の交差点から山内バイパスまでの距離が4キロあります。そのうちの1.3キロを西谷峠を中心とするこの改良工事、そしてもう一つは、山内バイパスと有田町の境に隣接します0.8キロの距離を当面改良していく。これで武雄市、山内町の建設期成会が当時つくられて、平成13年より活動をされておまして、この西谷峠のカーブ改良工事に国も平成15年予算をつけまして、16年、17年と690,000千円の予算がついて、その工事の推進に取り組まれてまいりました。

ここの道路交通量は、35号線、山内町付近の車の通行量は1日1万3,000台と当局から示されております。おまけにその交通量とあわせまして、西谷峠にありますこのトンネル、このトンネルの建設は109年前であります。1897年、明治30年7月10日、武雄の塚崎駅、九州鉄道塚崎から早岐間の開通でつくられた、この当時国鉄の109年前の建設事業です。

今考えますと、あのトンネルの車幅と109年後の今日の実態とは本当にお粗末ではないかと考えております。あそこを通る人も含めて、もちろんここにいらっしゃるすべての議員の皆さん方も、また、執行部の皆さん方もあそこの改良は必要だと受けとめていただいておりますが、私はこの工事が残念ながら1市2町の新市の発足のもと、これがとんざしているのではないかと考えているところであります。

そこで、この工事の進捗状況とあわせまして、この工事に取り組む市長の思いを求めておきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

12番議員の質問のときにもお答えを申し上げますので、国道35号の整備の中身については簡単に申し上げます。

確かに平成15年に事業費が予算化をされまして、5年間で完成をという計画があったのは

事実でございます。しかし、その後、測量等において計画がおくれておりまして、現在は予算化をされていないというふうに回答を得ております。

ただ、他の事業よりも予算を確保し、設計業務に入りたいというようなことは、国道工事事務所の方から回答を得ておりますし、ただ、その前にもJRとの協議が二、三年かかるというようなことも回答を得ているところでございます。今の状況はそういう状況でございます。

議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

23番（江原一雄君）〔登壇〕

国道35号線のこの現場は、先ほど申しましたように109年前のトンネルの実態であります。本当に国としても、もちろん地元の同意があり、地元の地権者の皆さんの同意があればすぐ予算がつくかと思えます。でも、地元の皆さんの合意を勝ち取る上ででも、執行部側の熱意が求められております。新しい体制になっているこの建設事業につきまして、旧町長の間の中でも、本当に地元の地権者の皆さんの御理解を得るために誠心誠意取り組んでいただきました。残念ながら、あとわずかとなっているようであります。そういう意味では、市長もこの山内町、武雄市の一体的な道路の運用状況、つくる上ででもこの西谷峠の改良工事は優先課題の第一に上げていただいて取り組んでいただきたい、国に対しても地元の要望として積極的に推進していただきたい。

これまで国道や県道等につきまして、優先課題という形で市長も答弁されております。この西谷峠の優先課題は何番目ぐらいでしょうか。そういうものを含めまして、この事業に取り組む決意をお示し願いたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

優先課題は高い方でありませう。

議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

23番（江原一雄君）〔登壇〕

当然、市長として担当部局の仕事の一つではありますけれども、本当にいざというときには首長の政治姿勢として課題が求められますので、そうした部面、部門、部門では力を発揮していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

首長でありますので、その節々、政治的に課題が生じたところでは、当然私も国との関係、あるいは県との関係、いろんなところで私もお話をさせていただきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

23番（江原一雄君）〔登壇〕

明確に答弁をいただきました。節々で国や県との関係でも求めていくと、こういう明確な答弁をいただいておりますので、一日も早く、あそこは高校生や、あるいは自転車通学の人たちが通る本当に危険な状態です。それは市長も受けとめていただいて、取り組んでいただきたいことを申し述べて、私の一般質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

議長（杉原豊喜君）

それでは、以上で23番江原議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 15時50分